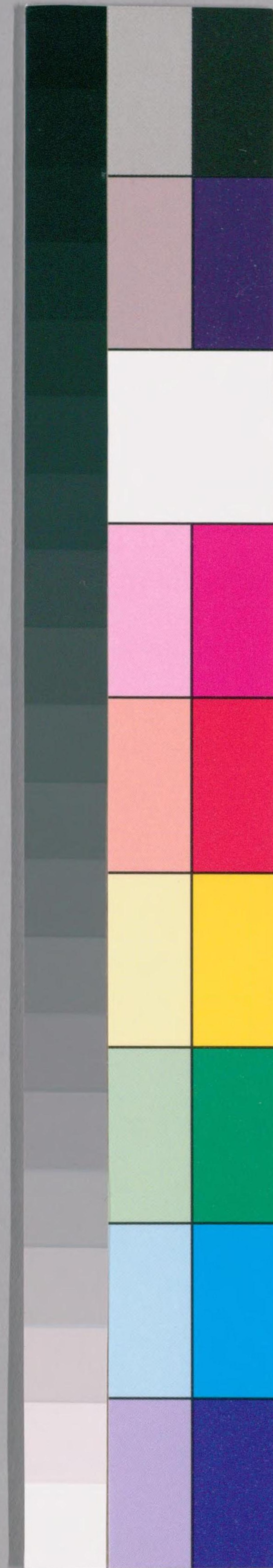


戊午

831
77
95

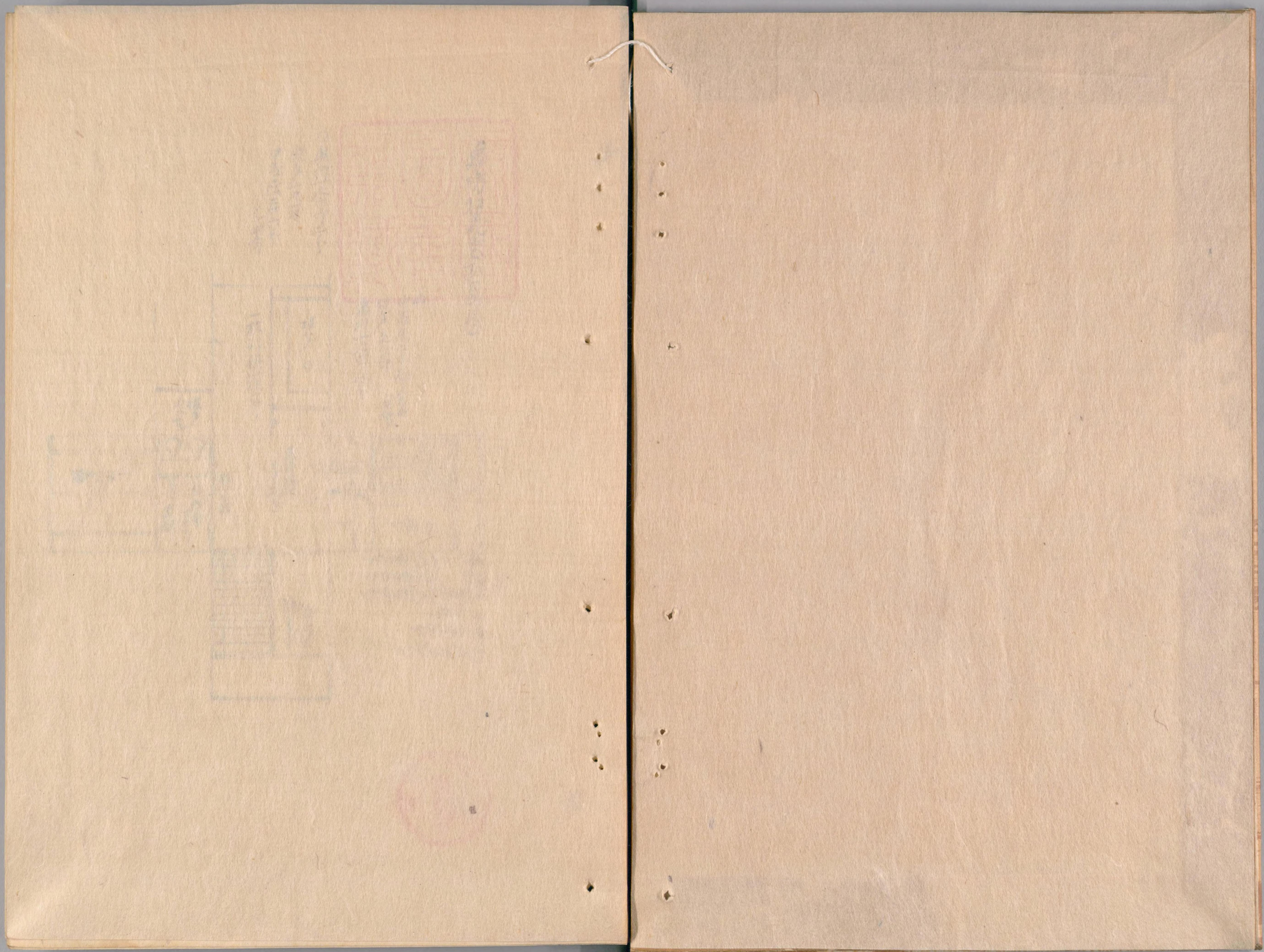
過眼録

七拾七冊之内
七



戊午過眼録

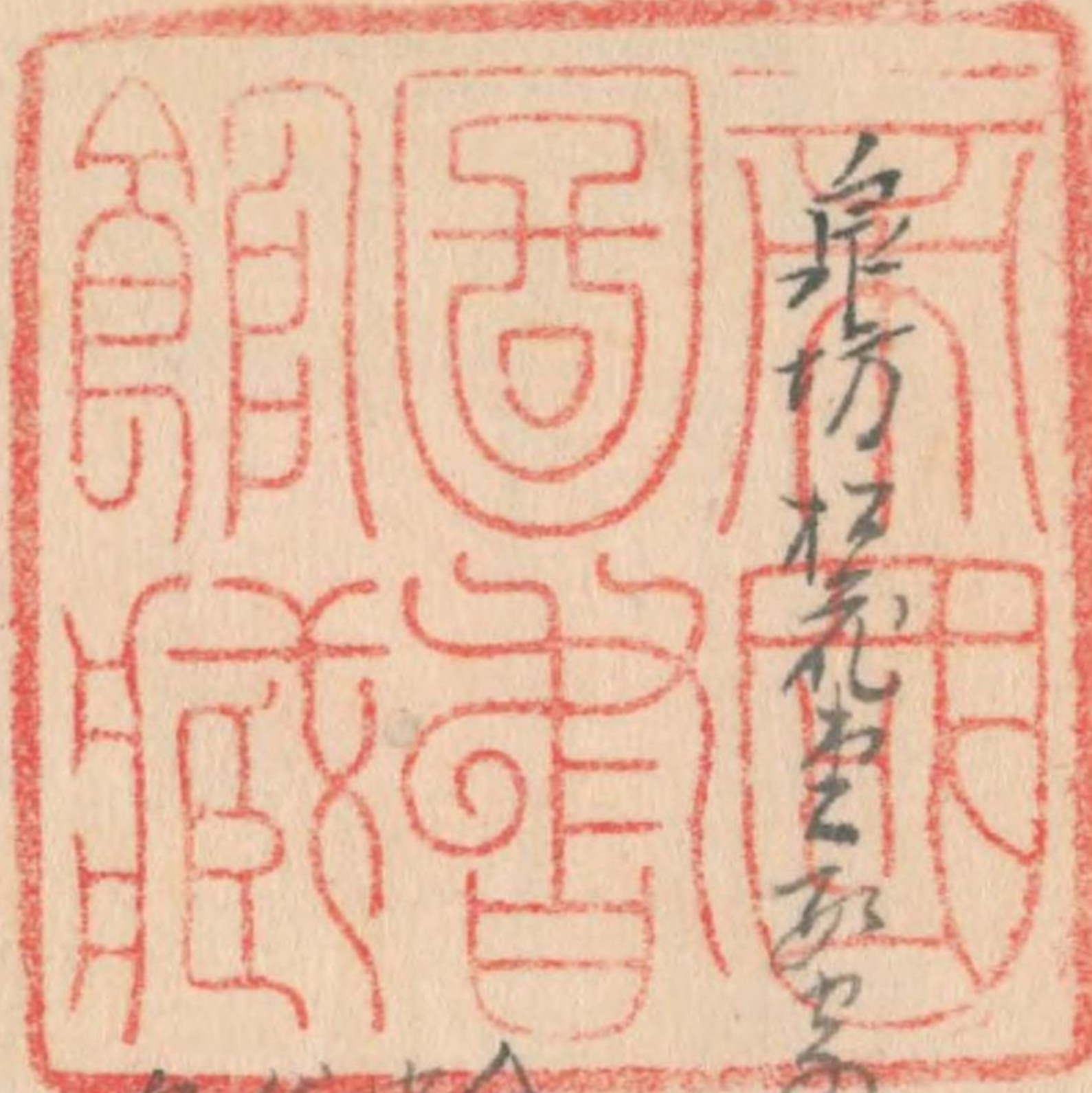
午族甲巳



国立国会図書館 タイトル『過眼録』 請求記号 831-95

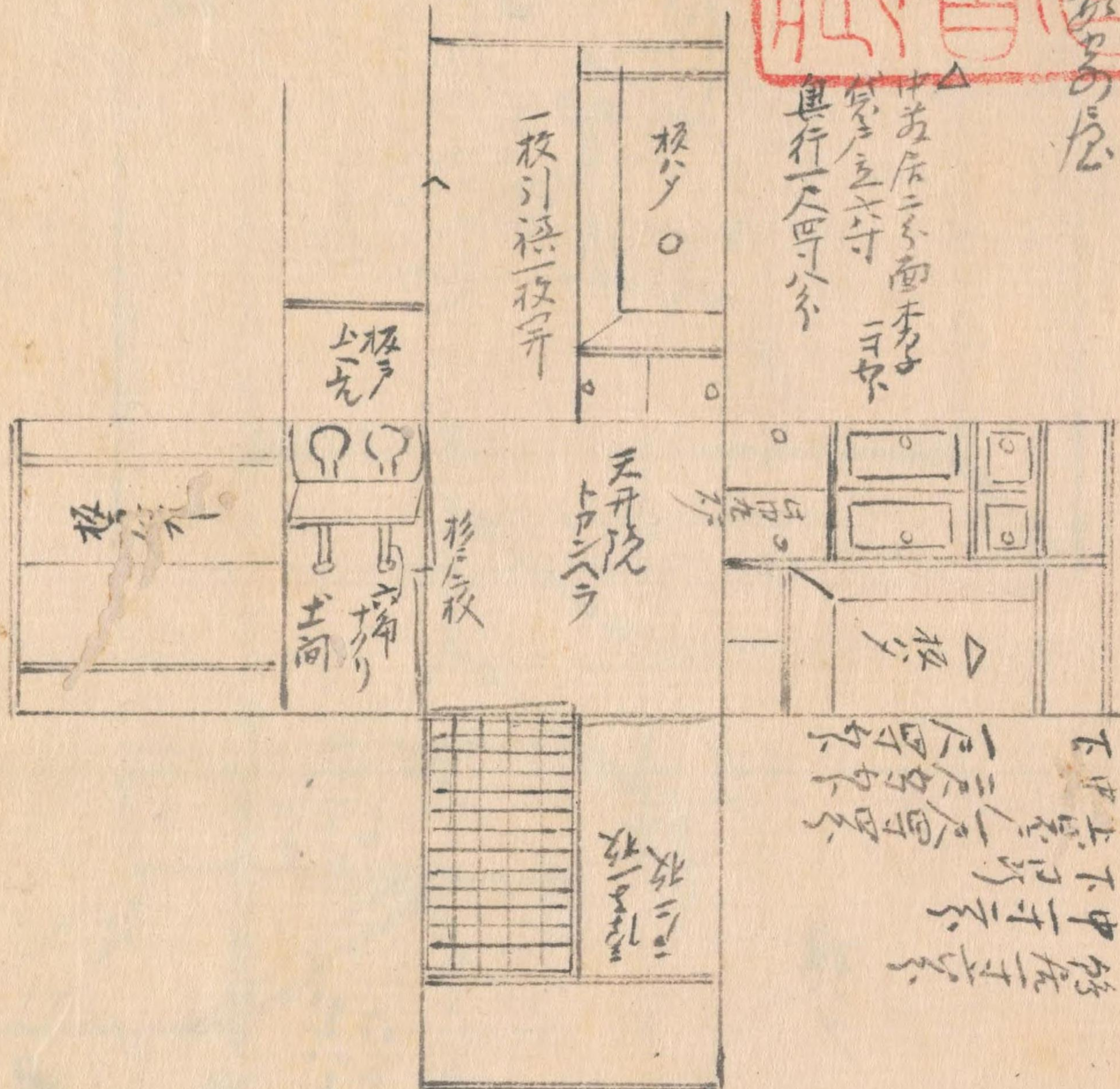
ガラス使用

〇奥行及寸下
貸入八寸
中五層三寸六分
三層

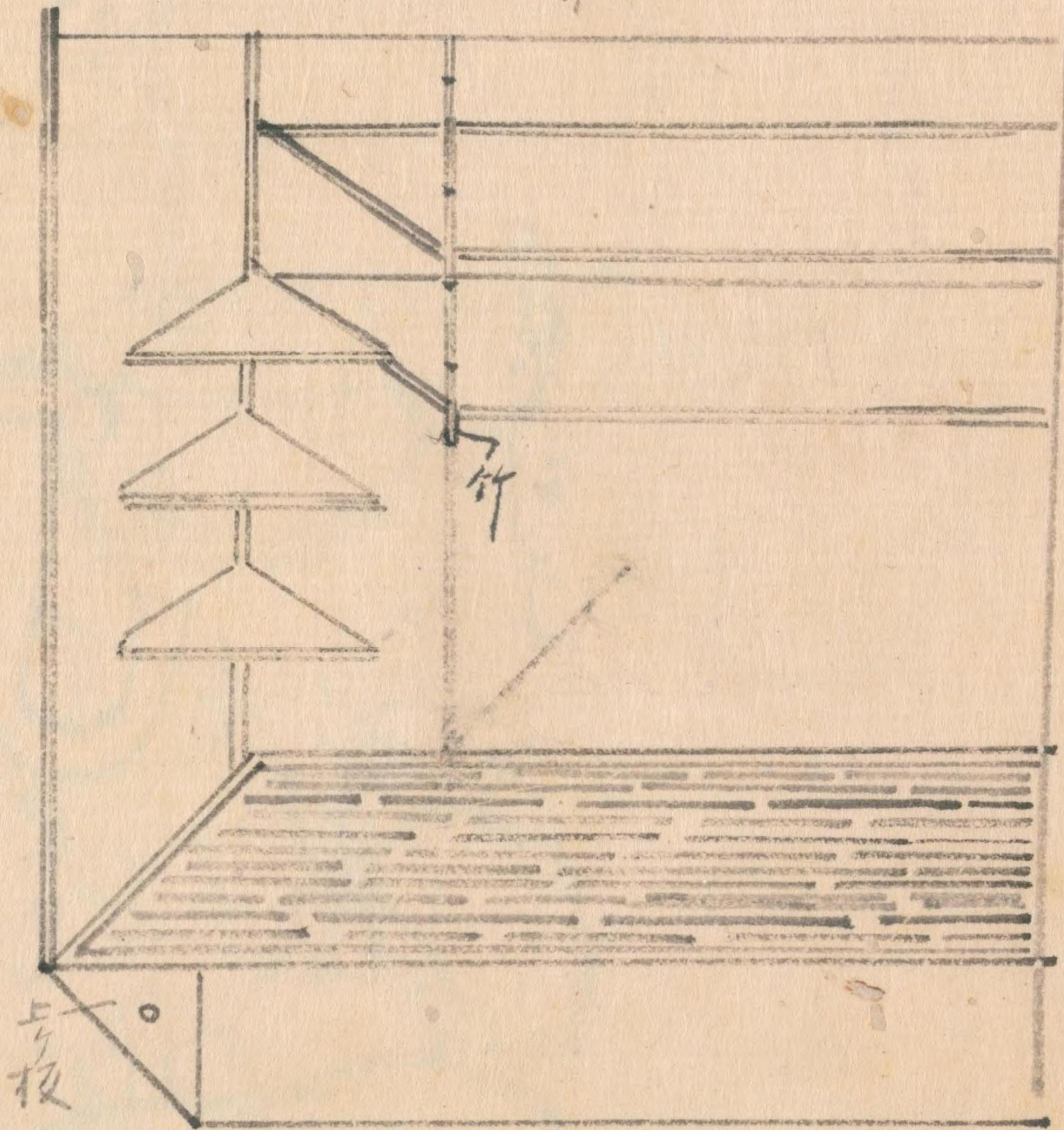
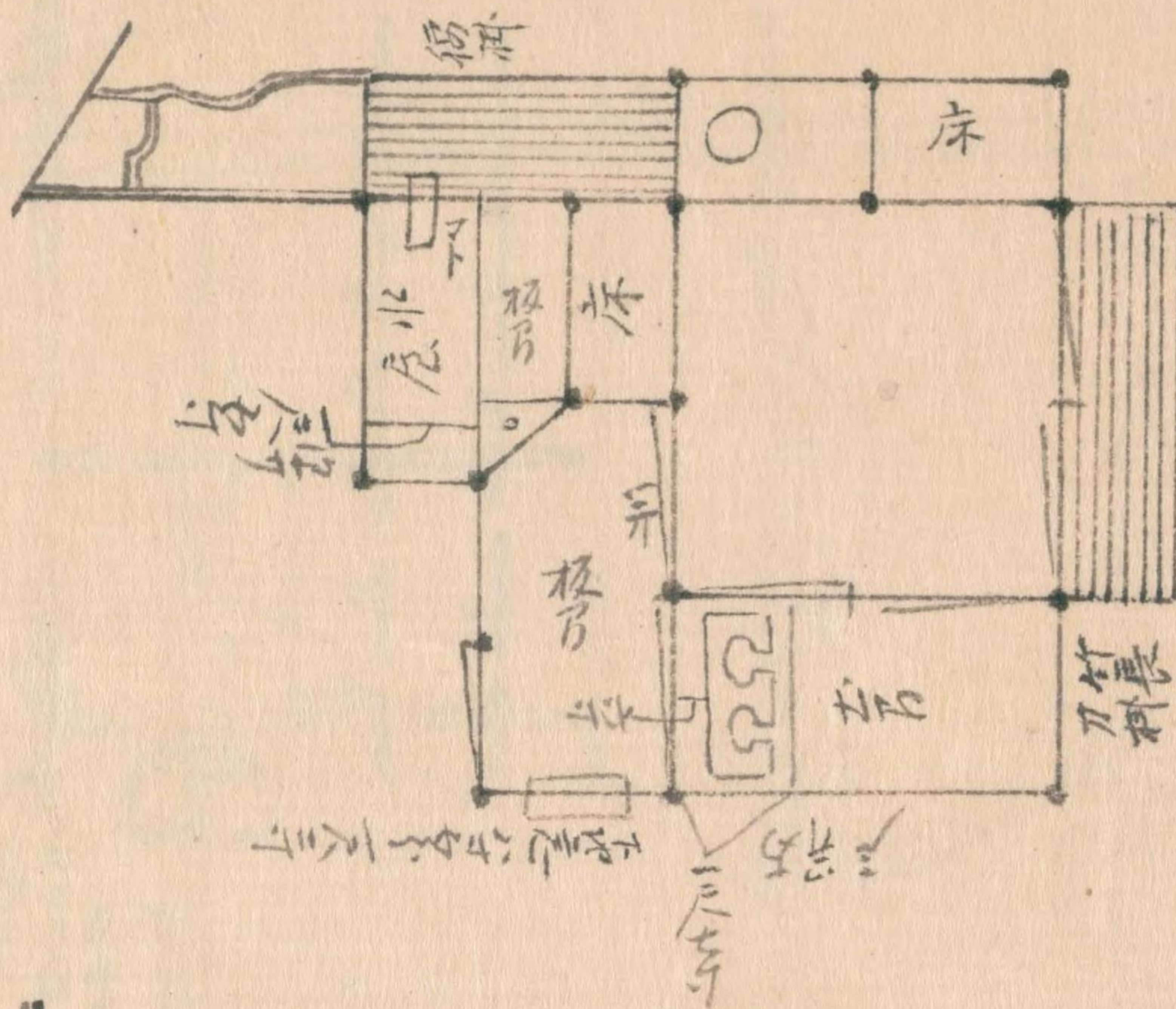


扉坊花書
〇奥行及寸下

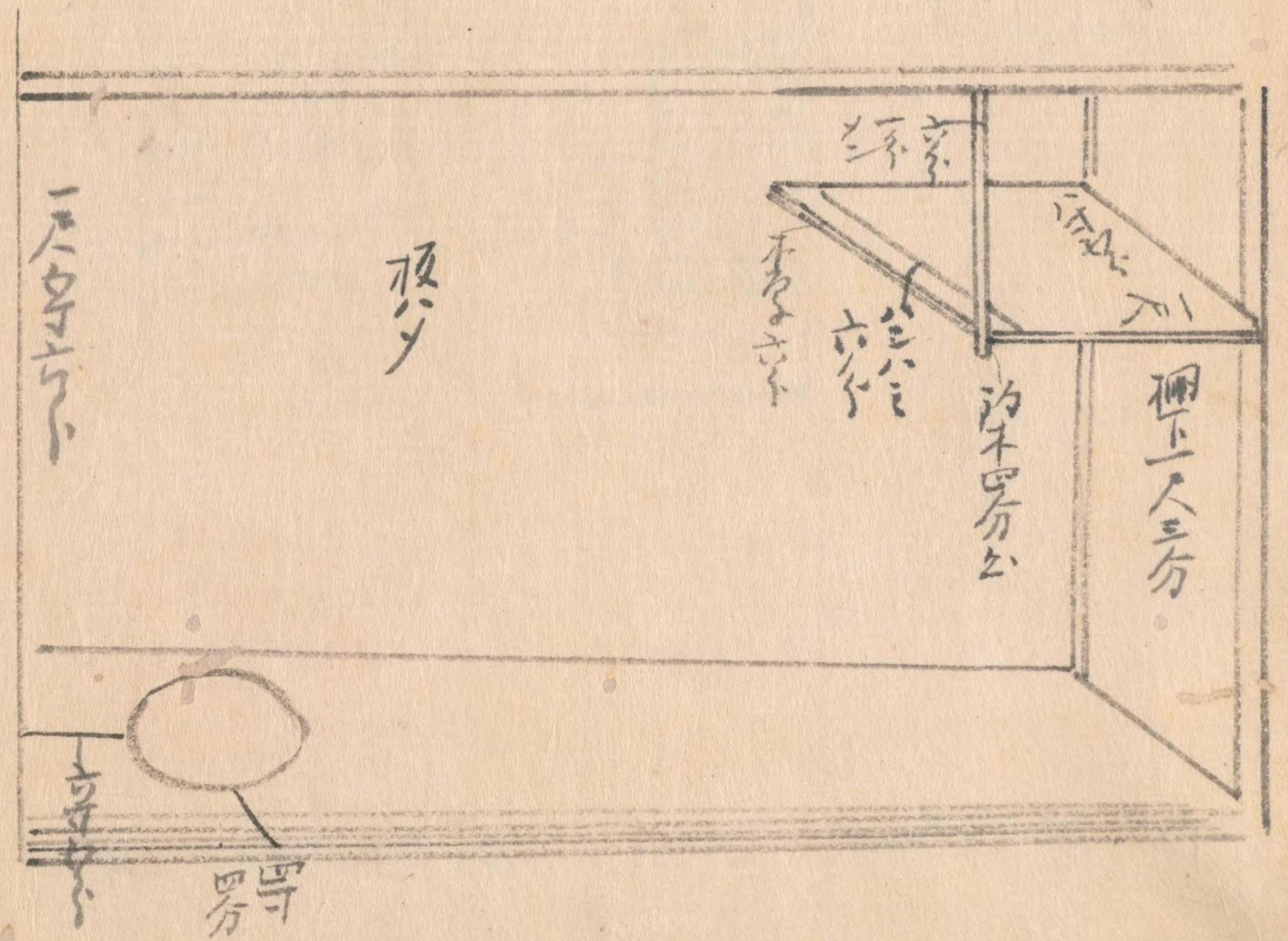
中五層三寸六分
三層
奥行八寸八分

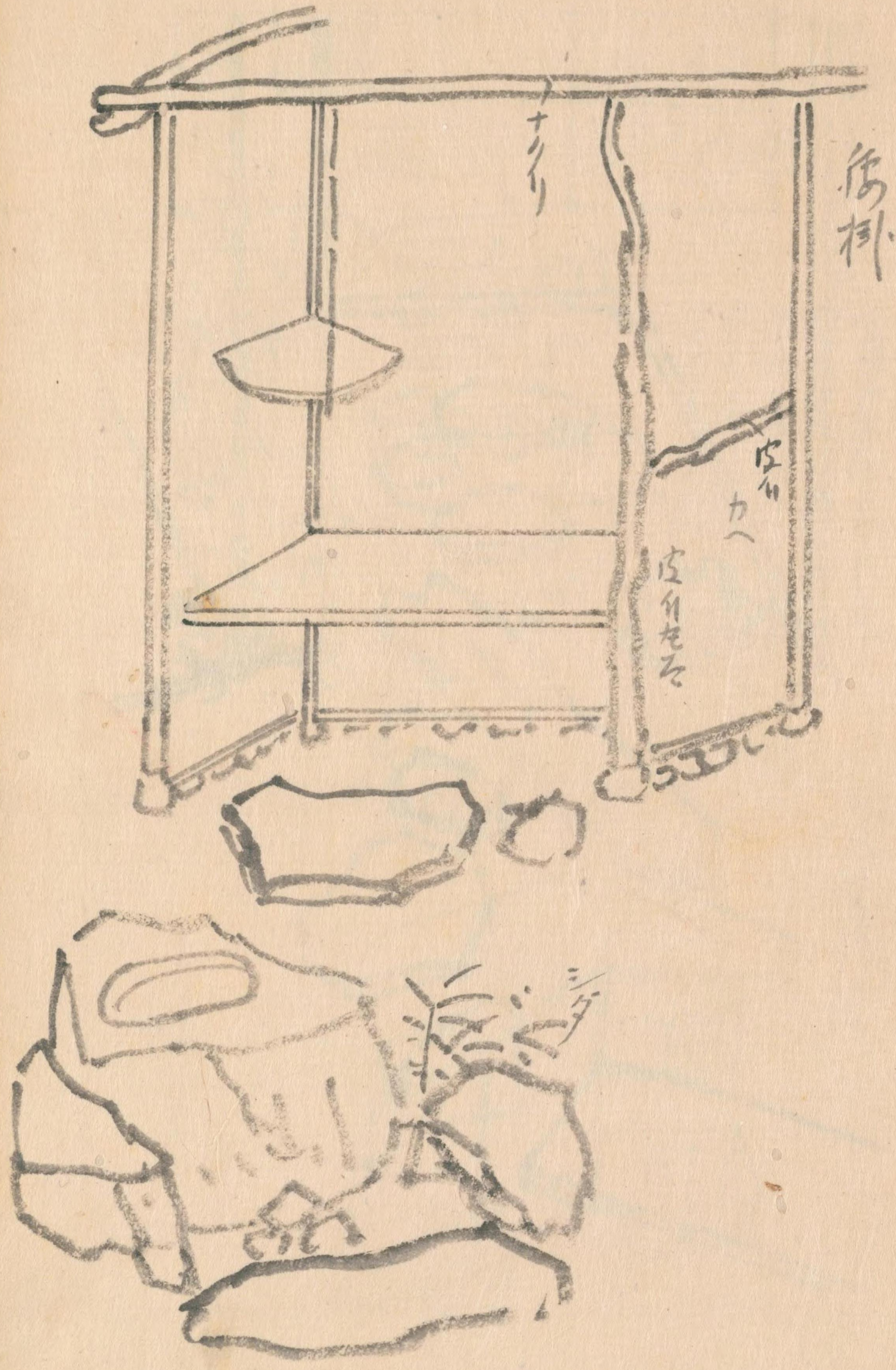


2



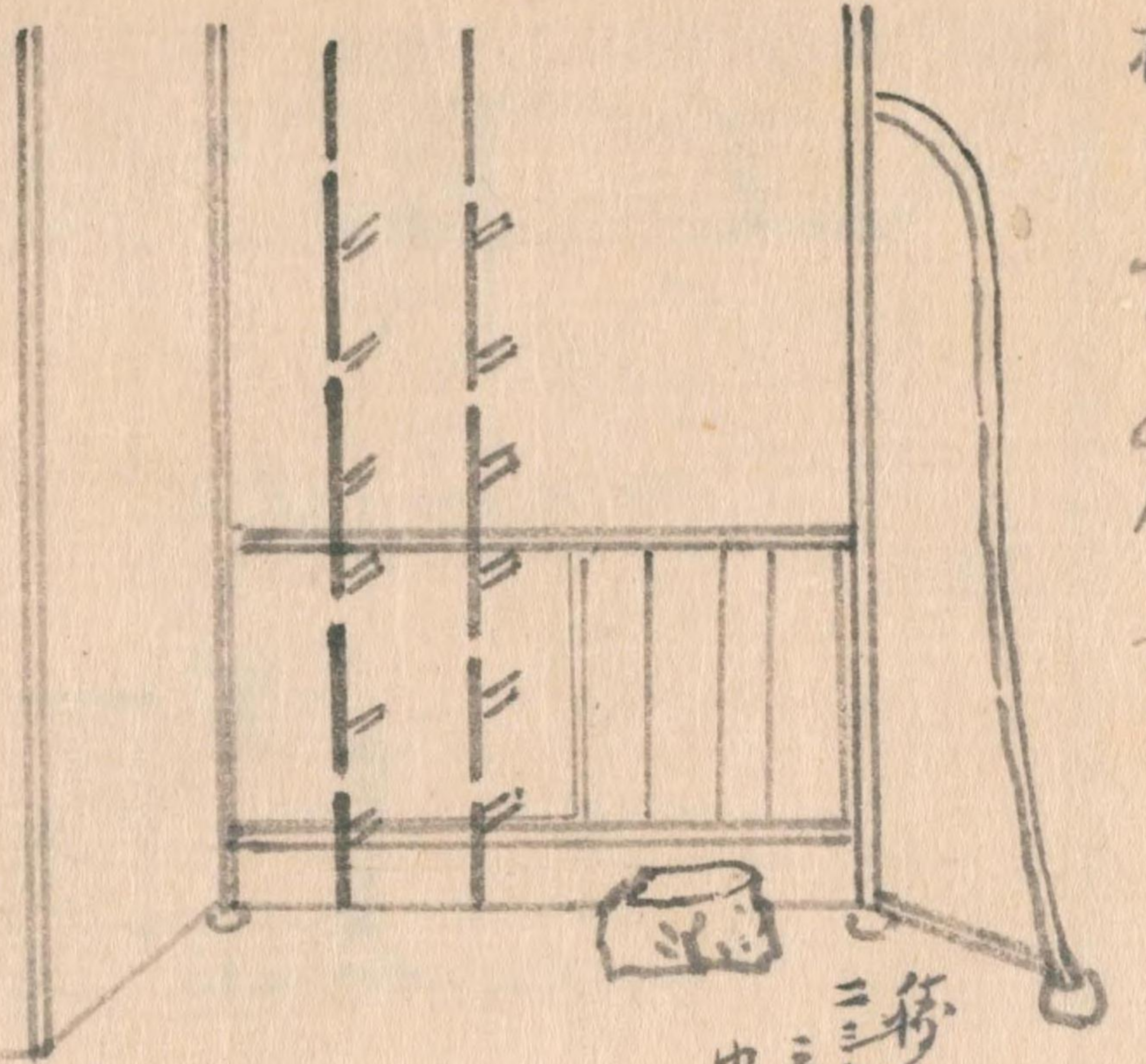
3





後掛

4

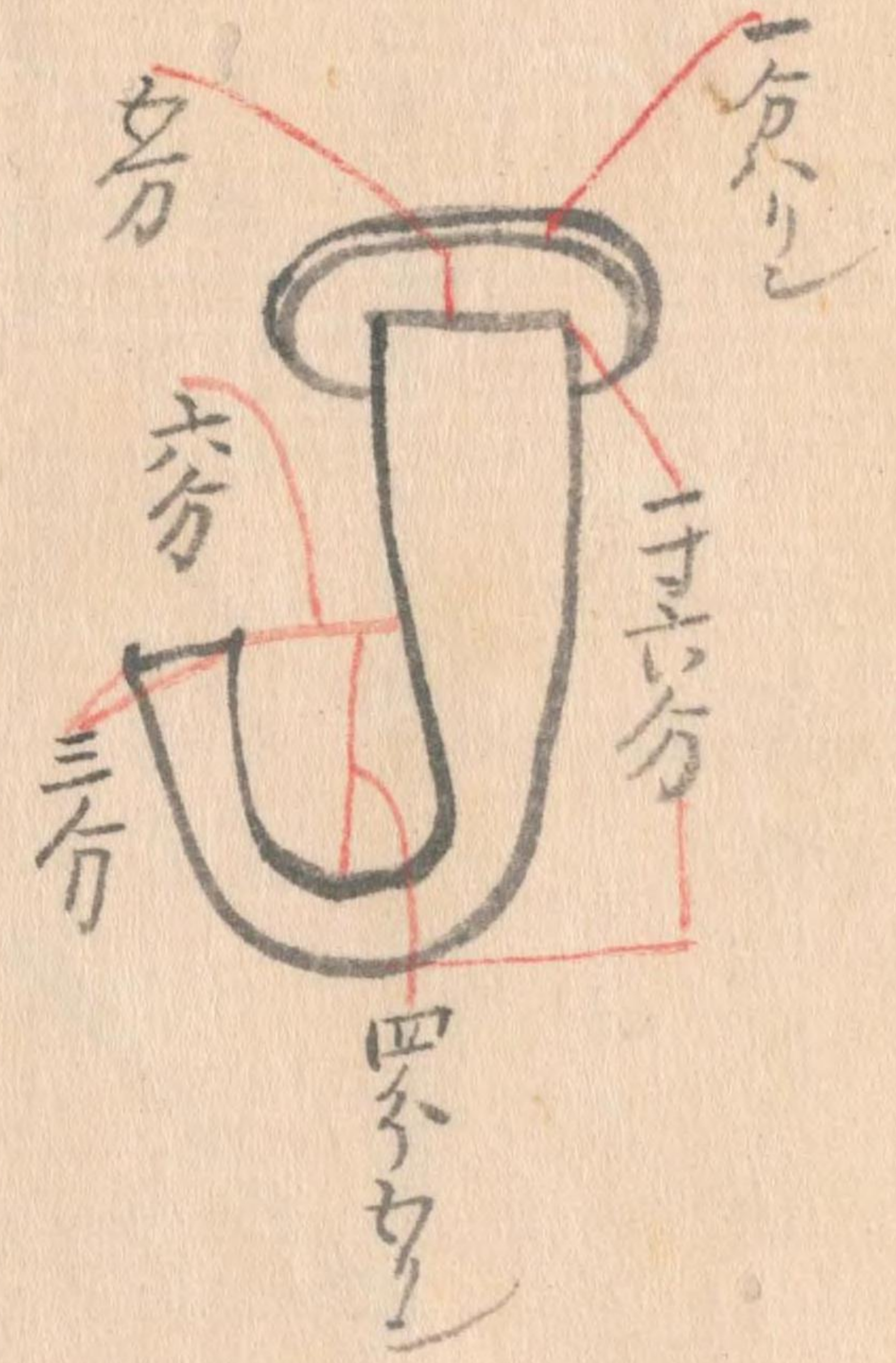


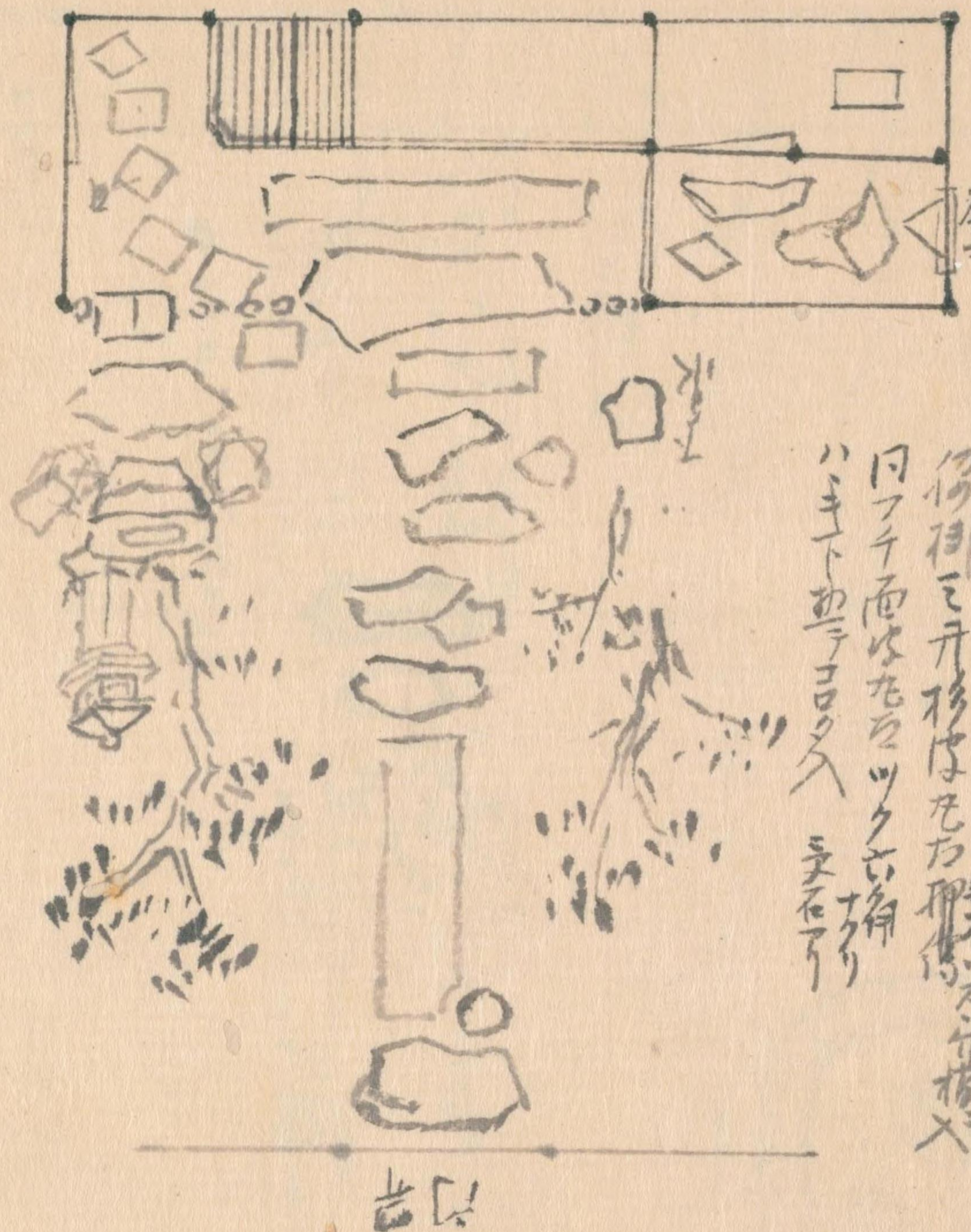
後掛のたきね

後掛
三三三
中三三
三三三

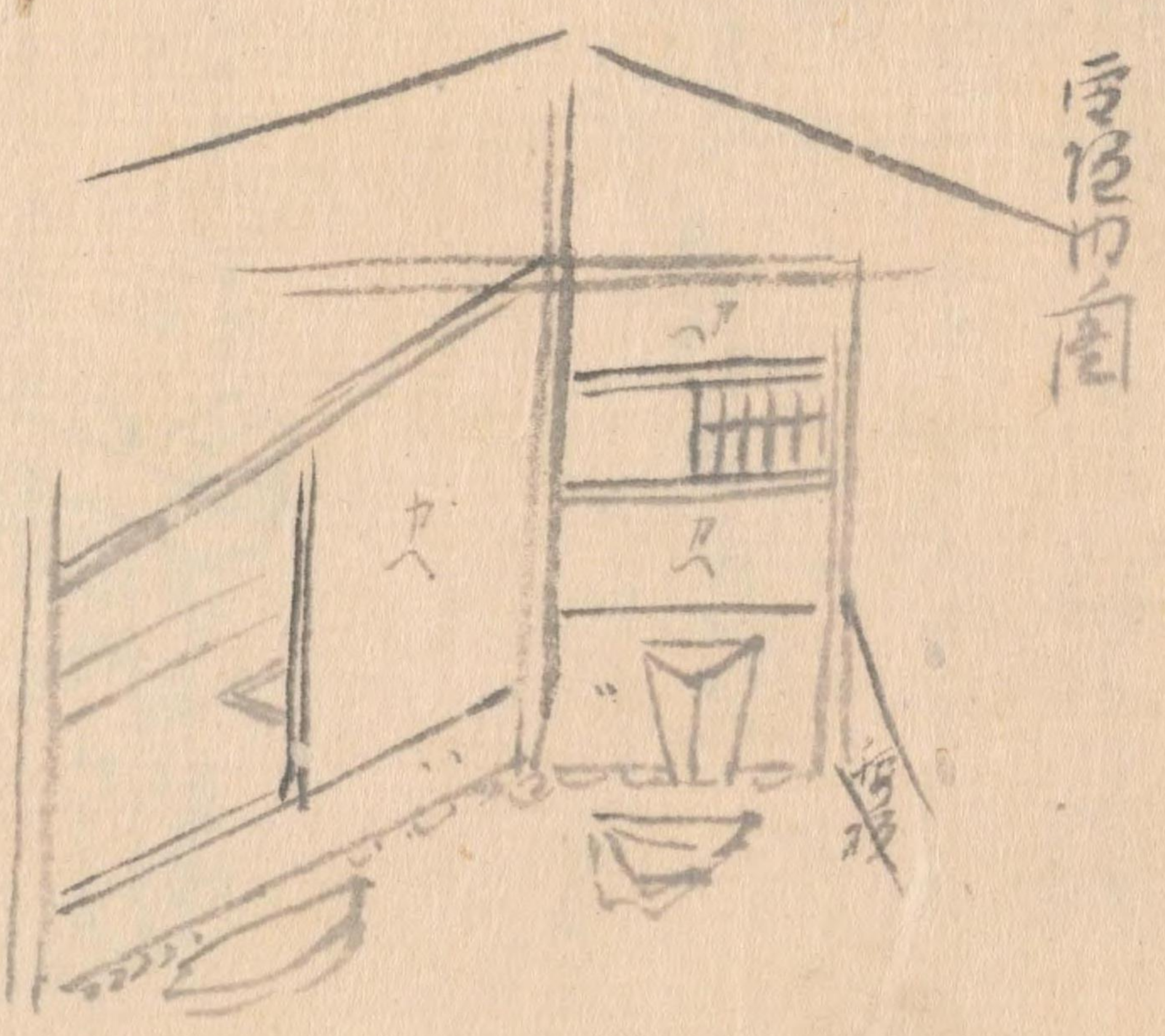


巾袋の釘手

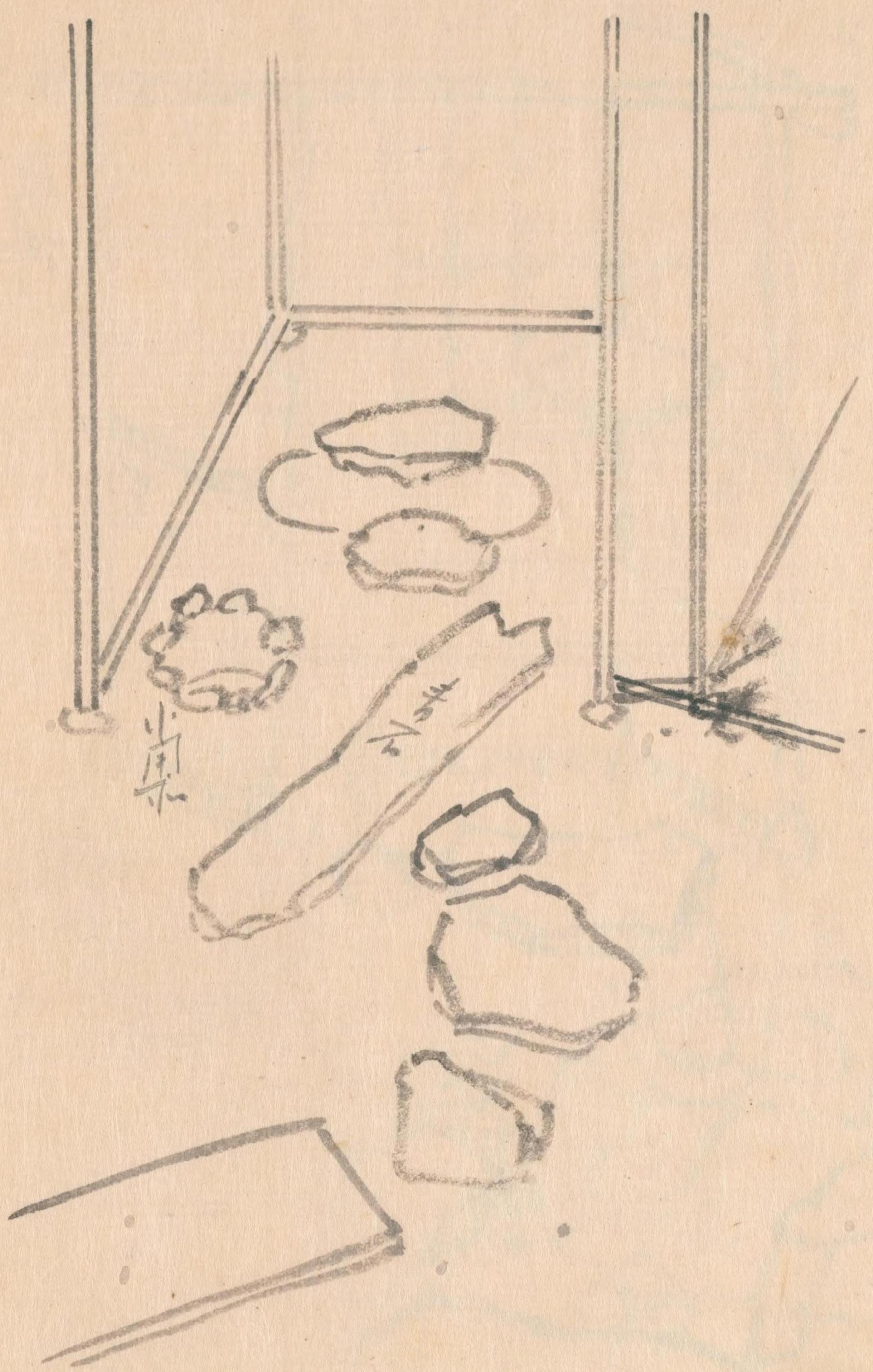




移すに付掛あり
 雪隠戸角柱を不動かす
 日原上を廻圍の字に白あり
 付掛を片移はるる形にスレ接し
 日フチ面は在るツクを角
 ハキ下をラコトス 主在り



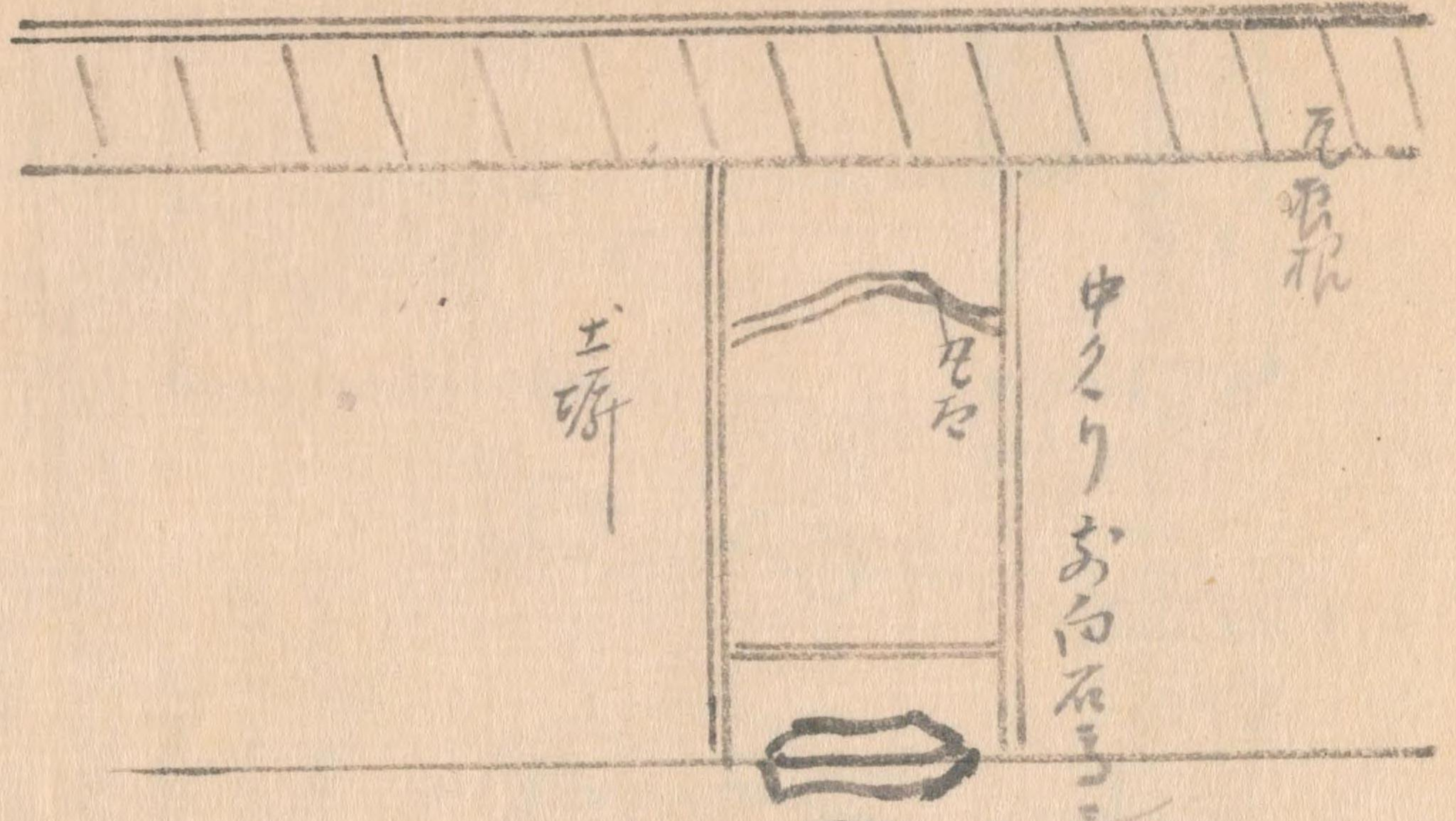
雪隠の面



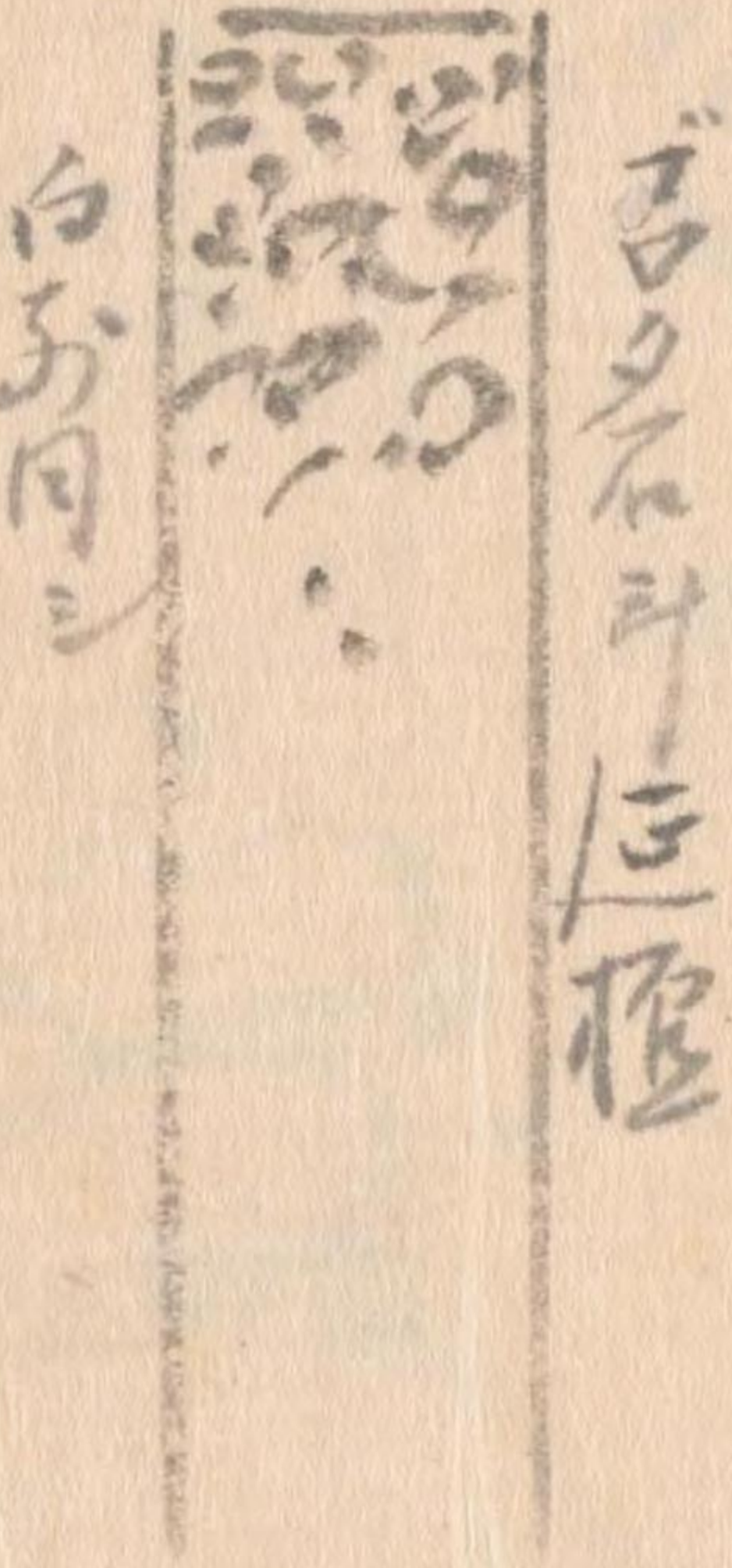
小南

十を... 縁のなる... 中... 石... 白...

21



泉坊三箇尾



石を坊
 スレ縁ランカ
 六角テクリ

珠浦漁人

許印
大祝

克
宗

行年
及人

金山

七葉園
繪師

孫珠

孫珠

雷溪

紙
山
水
字
七
絶
人

白

江丹山人

ふりあひのよよ日なをそそ子 書白

花をまきとて

花をまきとて

長昌才神宿のこ隠序とて入をしのびを
あふりこふら成はなはな采坊信おあはり
こい采坊新のまき節せえすまおあはり
ふりあひのよよ日なをそそ子 書白
高しめあひのよよ日なをそそ子 書白
掛地まきとてお目ま新し信をまきとて
うまきとて身白の采坊新のまきとて
海まきとて採坊新のまきとておまきとて
ふりあひのよよ日なをそそ子 書白
采坊新のまきとておまきとて



一 延日所つる所をいふ事ありとくは防心海人
 入流字にあらん人して上なる事あり
 一 早空道神老、江府のちお中ておめ
 志中なる人なりし中て
 一 日お大、なまもあはるあめさう
 一 日十八、なまもあ
 一 日い、なまもあ
 一 序号三三三、江府のちお中て
 一 日、御所のちお中て
 一 日、御所のちお中て
 一 日、御所のちお中て

9

一 延日所つる所をいふ事ありとくは防心海人
 入流字にあらん人して上なる事あり
 一 早空道神老、江府のちお中ておめ
 志中なる人なりし中て
 一 日お大、なまもあはるあめさう
 一 日十八、なまもあ
 一 日い、なまもあ
 一 序号三三三、江府のちお中て
 一 日、御所のちお中て
 一 日、御所のちお中て
 一 日、御所のちお中て



三好坊

江原坊

成務坊

沙原二入元

高島村長尾元

津島村長尾元

山内三長尾元

小原三長尾元

中村三長尾元

新庄元

白尾村長尾元

原元

何れも長尾元

10

三好坊

江原坊

成務坊

沙原二入元

高島村長尾元

津島村長尾元

山内三長尾元

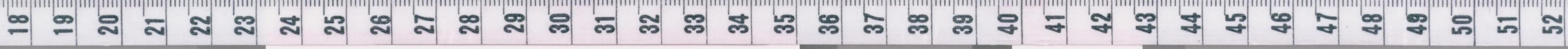
原元
二入元

右の如きこと... 長尾元

高島村長尾元

長尾元

長尾元





九分

五分

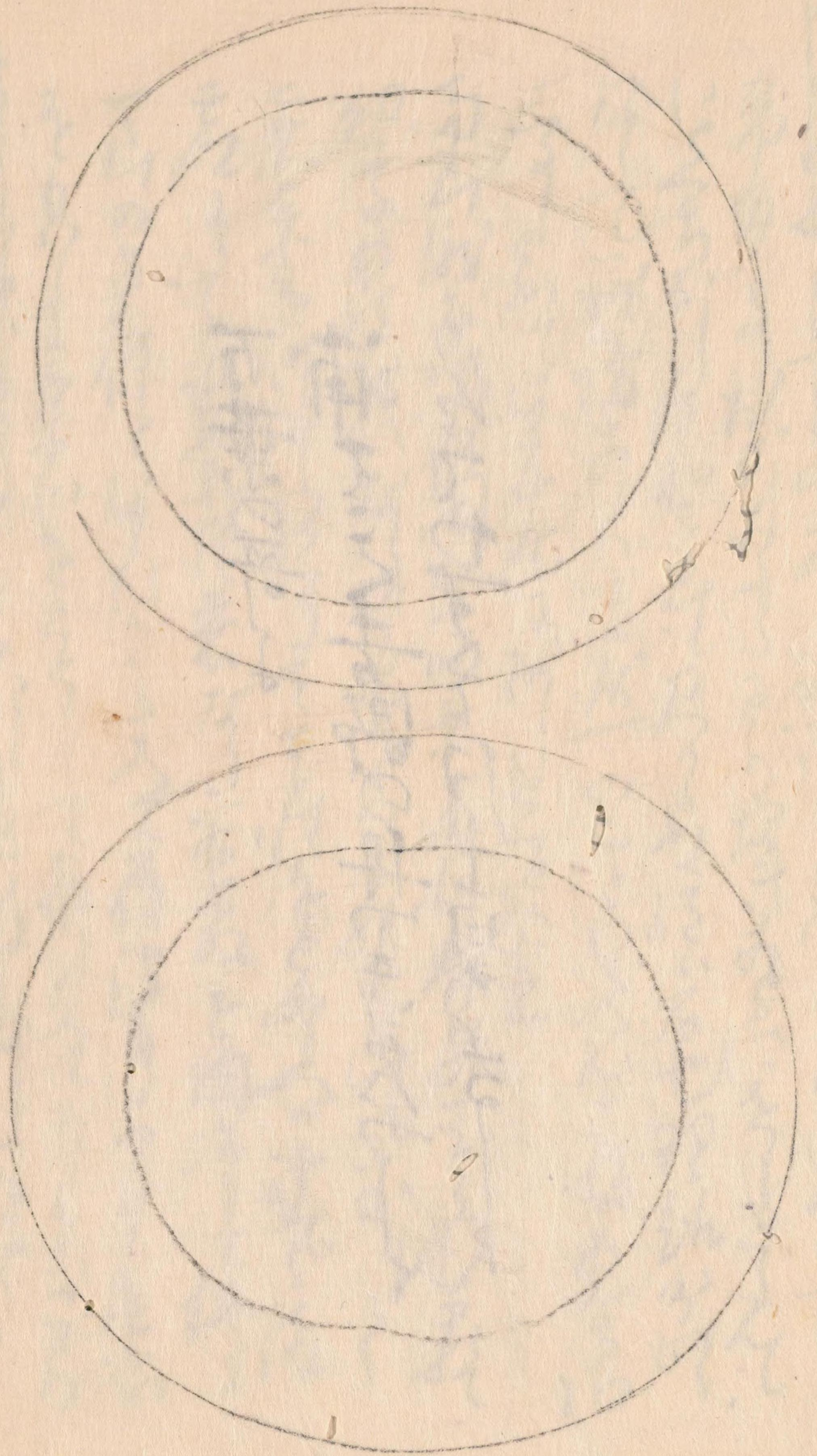
五分

四分

五分

物より下へ

カ
カ
イ
表
的



風字硯箱

龍光常佳

杉子

交世品許

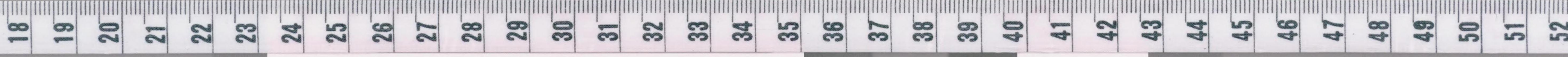
時能成文
以能成文
耳能成文
如能成文
了能成文
竹能成文
音能成文
舌能成文
友能成文
主能成文
己能成文
向能成文
之能成文

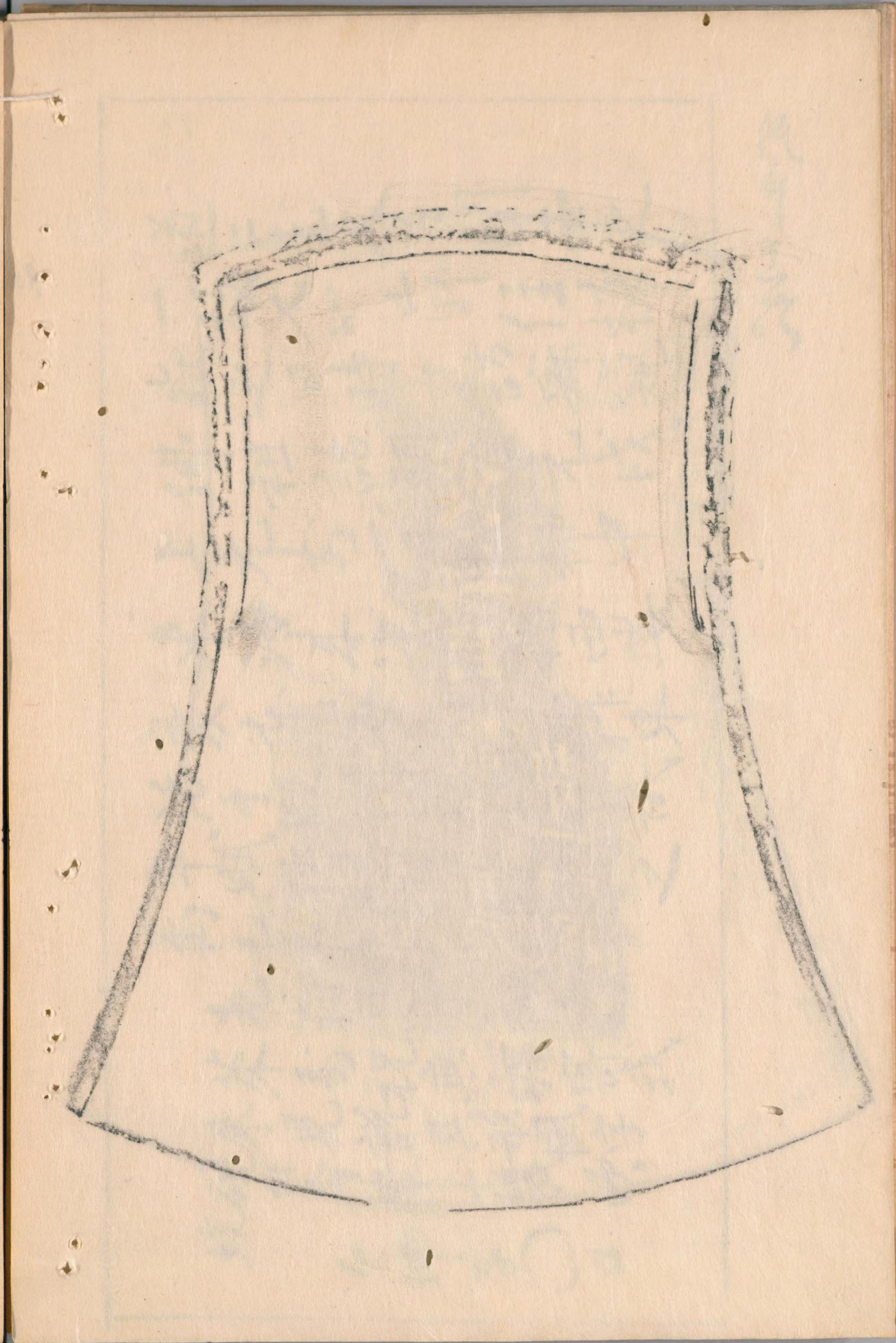
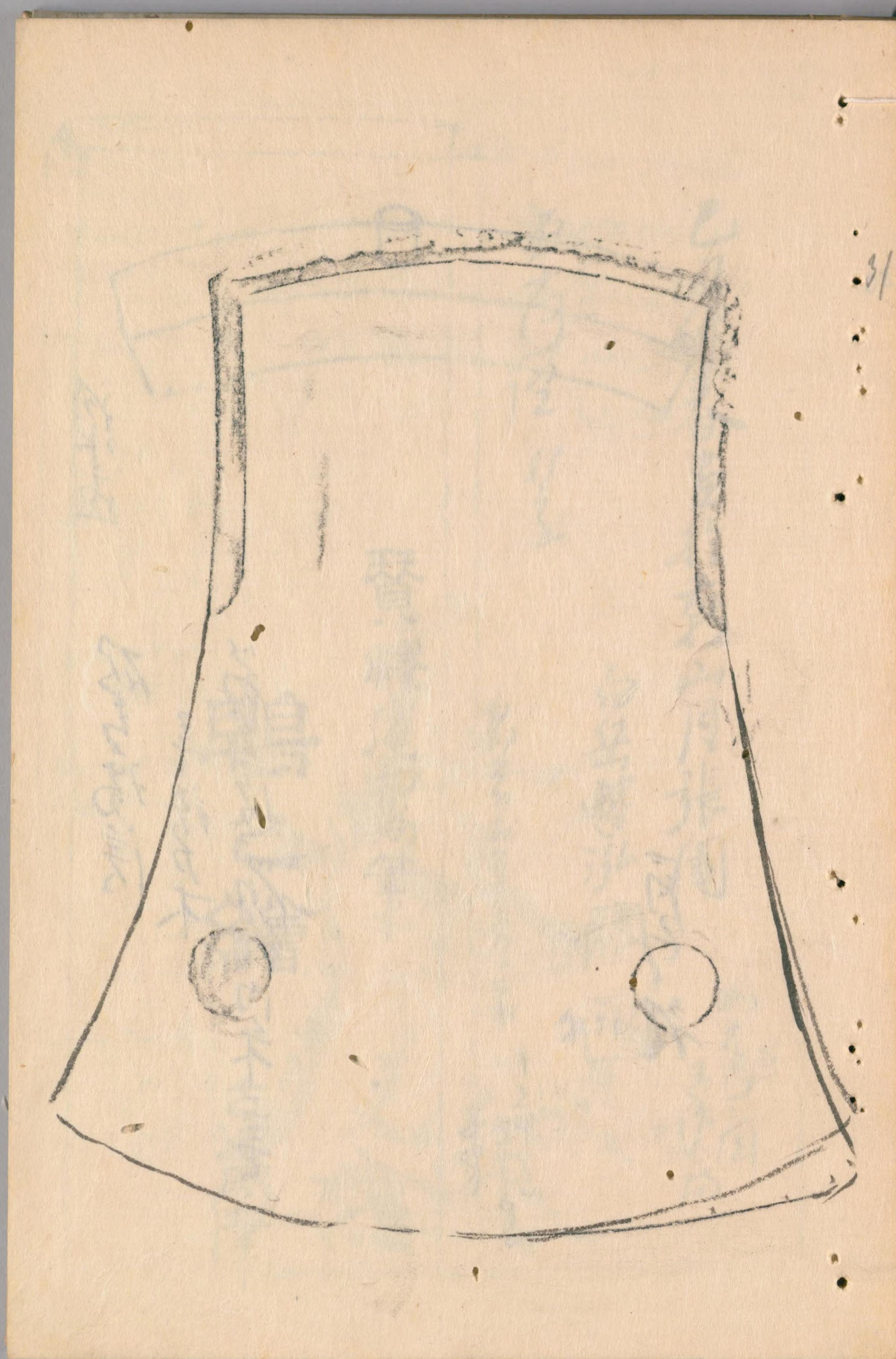


80

道三乞人女閨西之
 一故人女山野任横
 嶽之日時六訪新窺
 佛祖話頭多无成
 上元夜一日投神中
 東海毒氣將借西夢
 变女身者呼西集
 活手段何賜如之哉
 卒賦拙偈后述謝之
 萬云云
 先翁具力袖蓮
 萊奇祝無疆寧哉
 來見就具形風字
 碑自今案上幾吹
 埃
 久伸子○目

紙片之巻





鴨之繪

古法眼筆

賈懌庵和尚筆

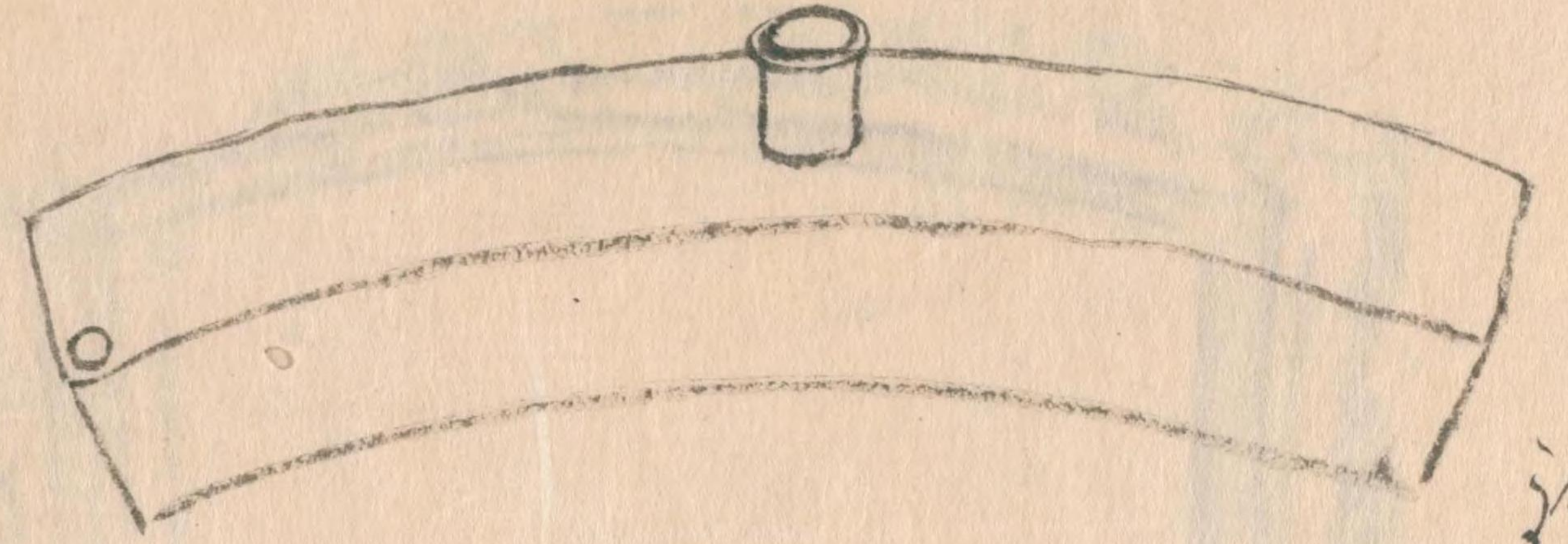
己丑仲春畫於燕山月張園

白岳轉泓

若者何從

白初也... 筆

此花... 筆



湯半面

石... 筆

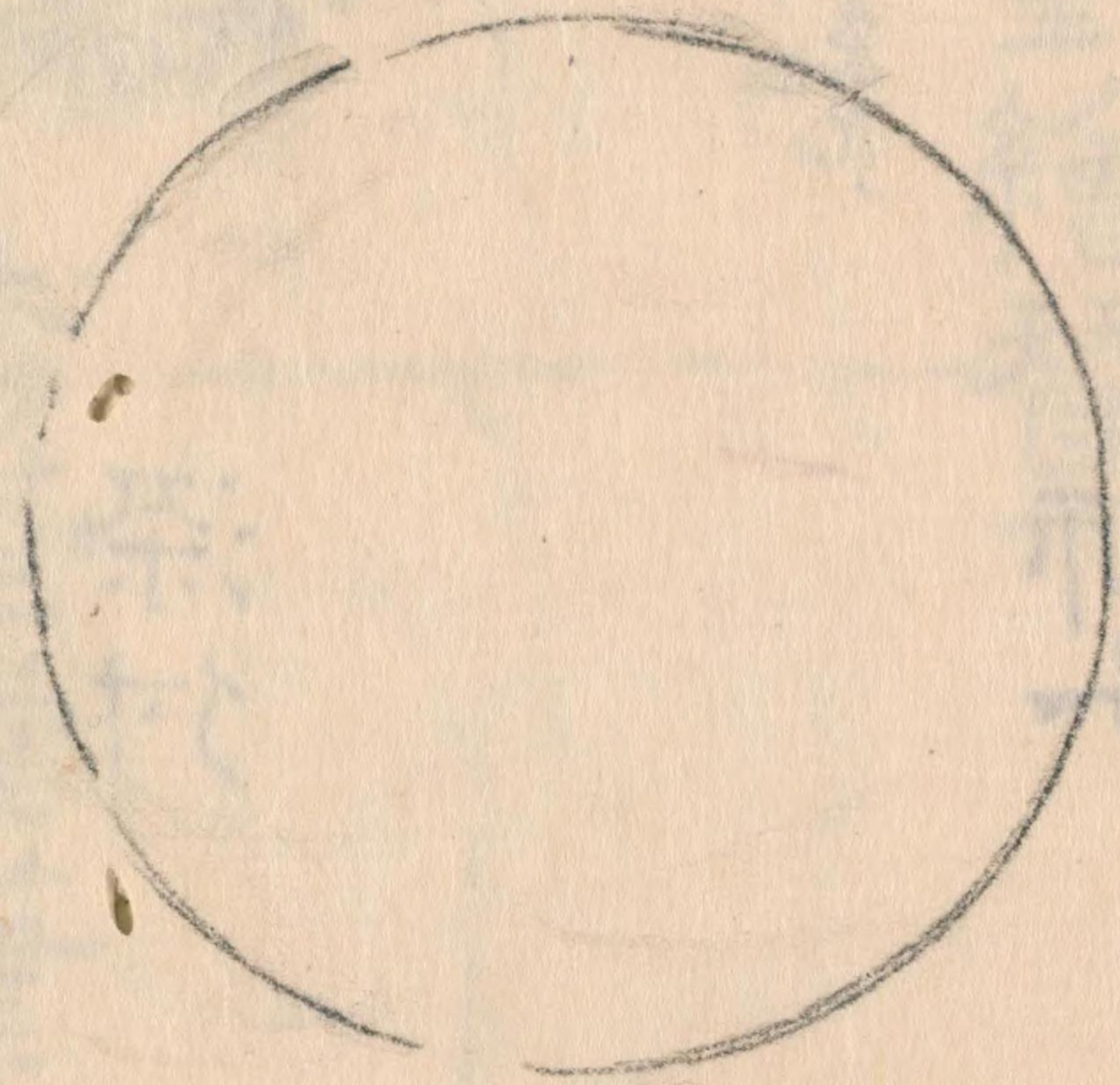
是... 筆

此... 筆

月... 筆



此
三ノリ
一ノリ
二ノリ
三ノリ
四ノリ
五ノリ
六ノリ
七ノリ
八ノリ
九ノリ
十ノリ



香獸

此
一ノリ
二ノリ
三ノリ
四ノリ
五ノリ
六ノリ
七ノリ
八ノリ
九ノリ
十ノリ

餘寒未淺
忘雪愛梅
感執花意
此禽奚求
得庵

此



此
一ノリ
二ノリ
三ノリ
四ノリ
五ノリ
六ノリ
七ノリ
八ノリ
九ノリ
十ノリ

此
一ノリ
二ノリ
三ノリ
四ノリ
五ノリ
六ノリ
七ノリ
八ノリ
九ノリ
十ノリ

此
一ノリ
二ノリ
三ノリ
四ノリ
五ノリ
六ノリ
七ノリ
八ノリ
九ノリ
十ノリ

此



白粉書之てり人打

牧童繪賛

杏荅堂筆

子

34

以是蜀紀
結系
言松子也



浪存危

白粉書

花
子

獅子

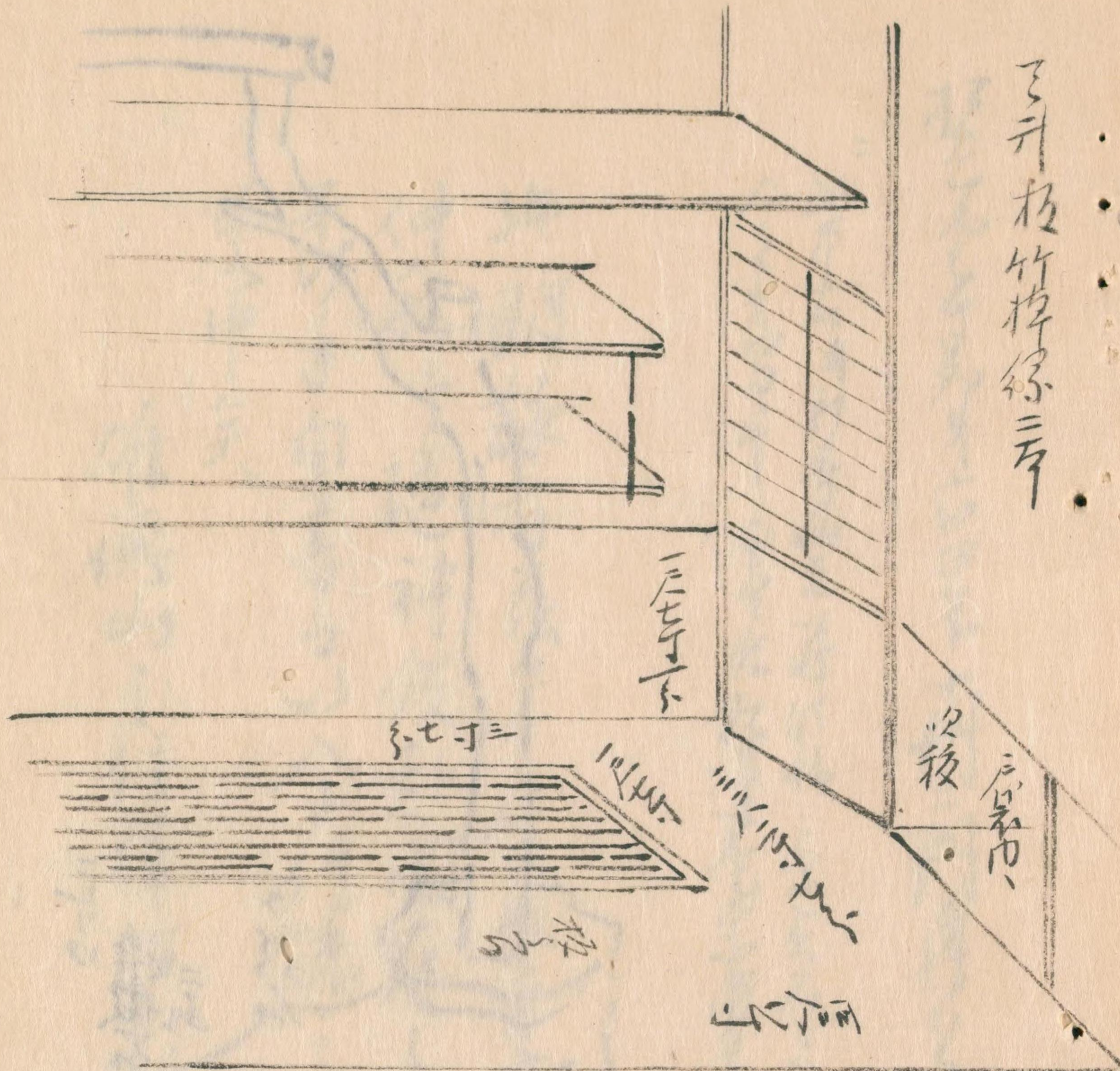
深付

香爐



35

山あり水ありのさう
 うらやましくたらしう
 りらみの白雲を
 かたりとどきまはるしのさ
 こころとてさうさう
 ありとてさうさう



三升板竹棹縁三平

26

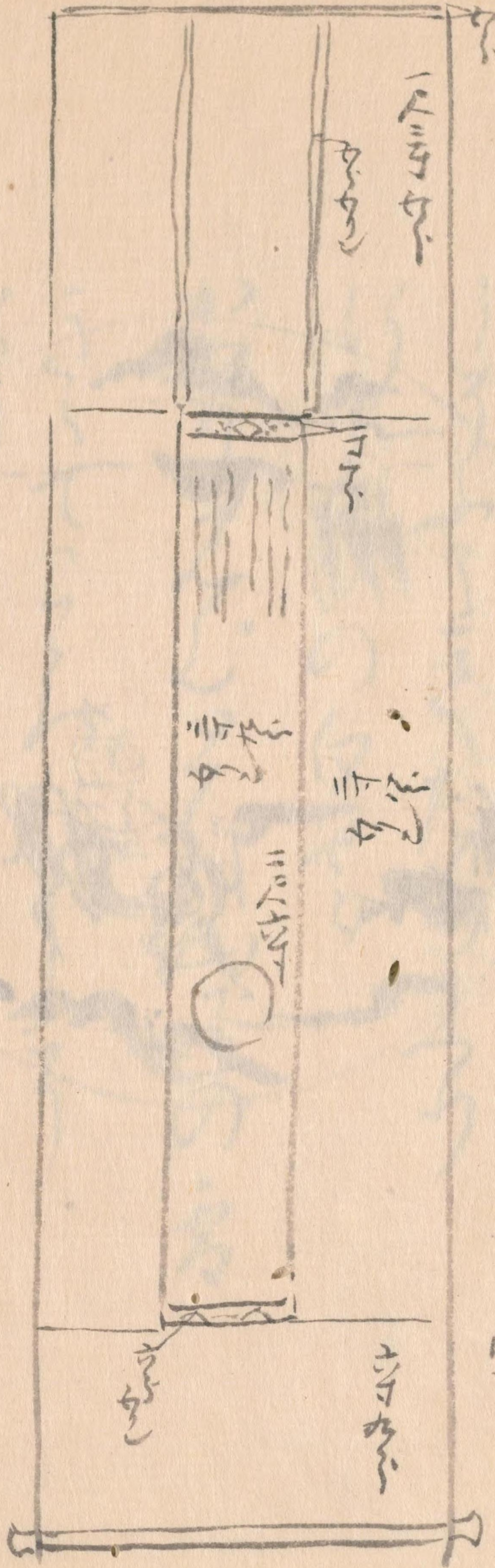
以後
店裏内

樂内洞

正三十四尺
長平道中
と膝元のいり
五尺
五尺
五尺

是言其水之新平其水有
凡是也風也

男之記



三平

乃板仰十寸半目
五尺

20
松尾重子卿才女下京下南二丹身之方

二
常古在年打考仙去以時法持之字之玄名之自字之平
心之書寫年 三平者乃邊邊是宗甫之老成翁矣

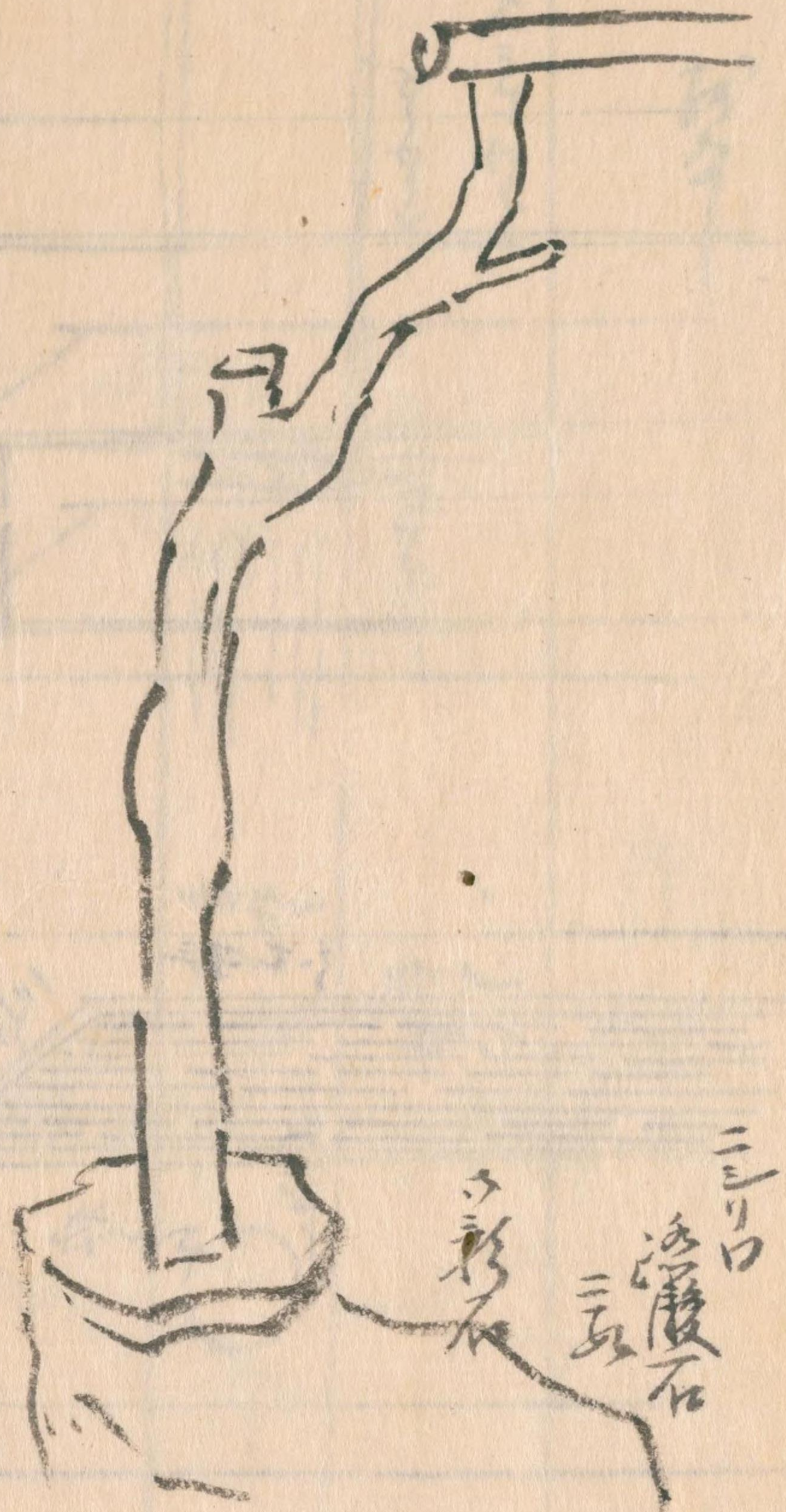
此朗詠者茲年慶長壬子

仲秋予隨神後赴關左

景山手自書之入子行旅

笑中矣

唯德山之任釋昭葉矣



三ツ口
法履石
三五
小影石

樂風同

朗詠 並 詠歌大概

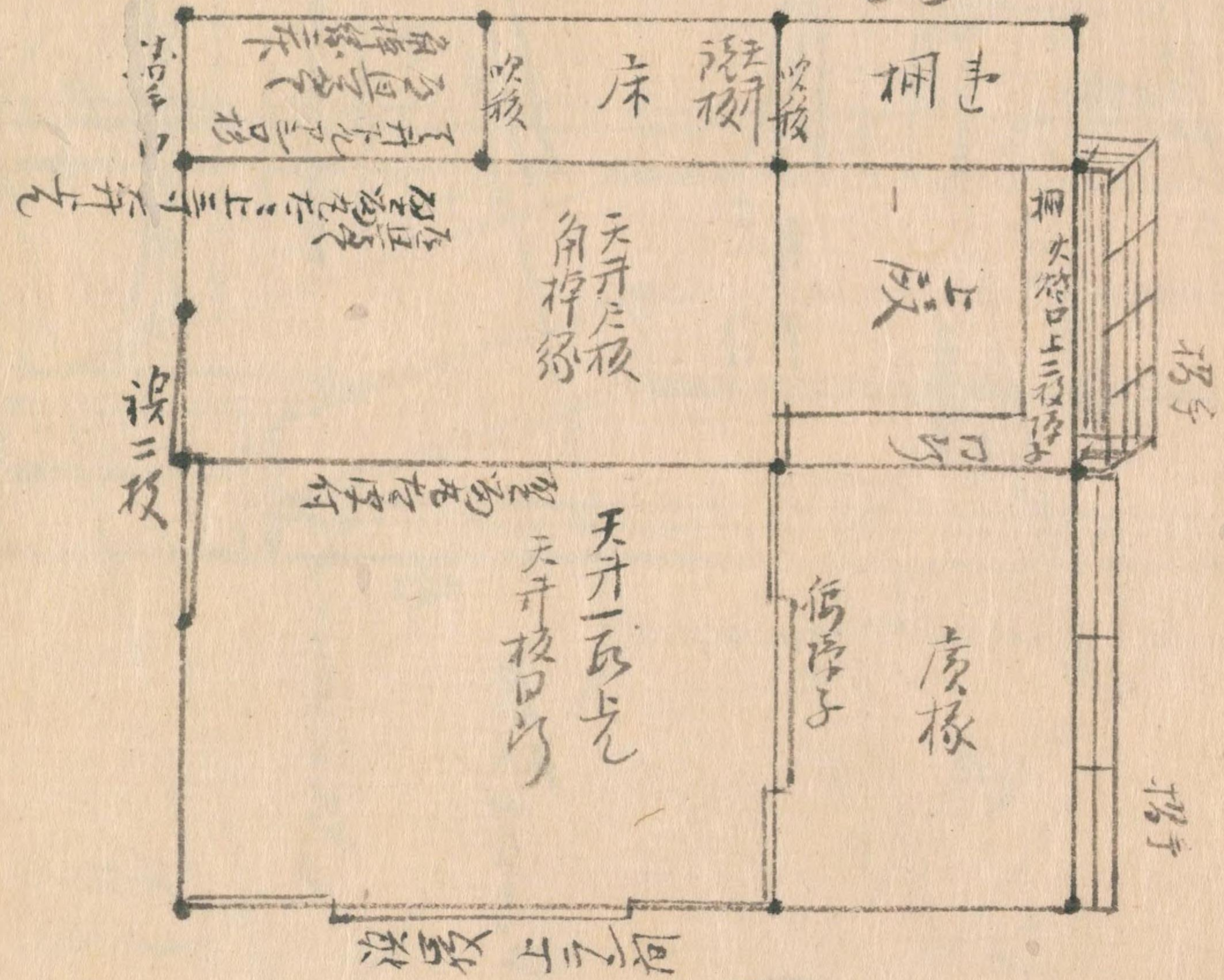
白根

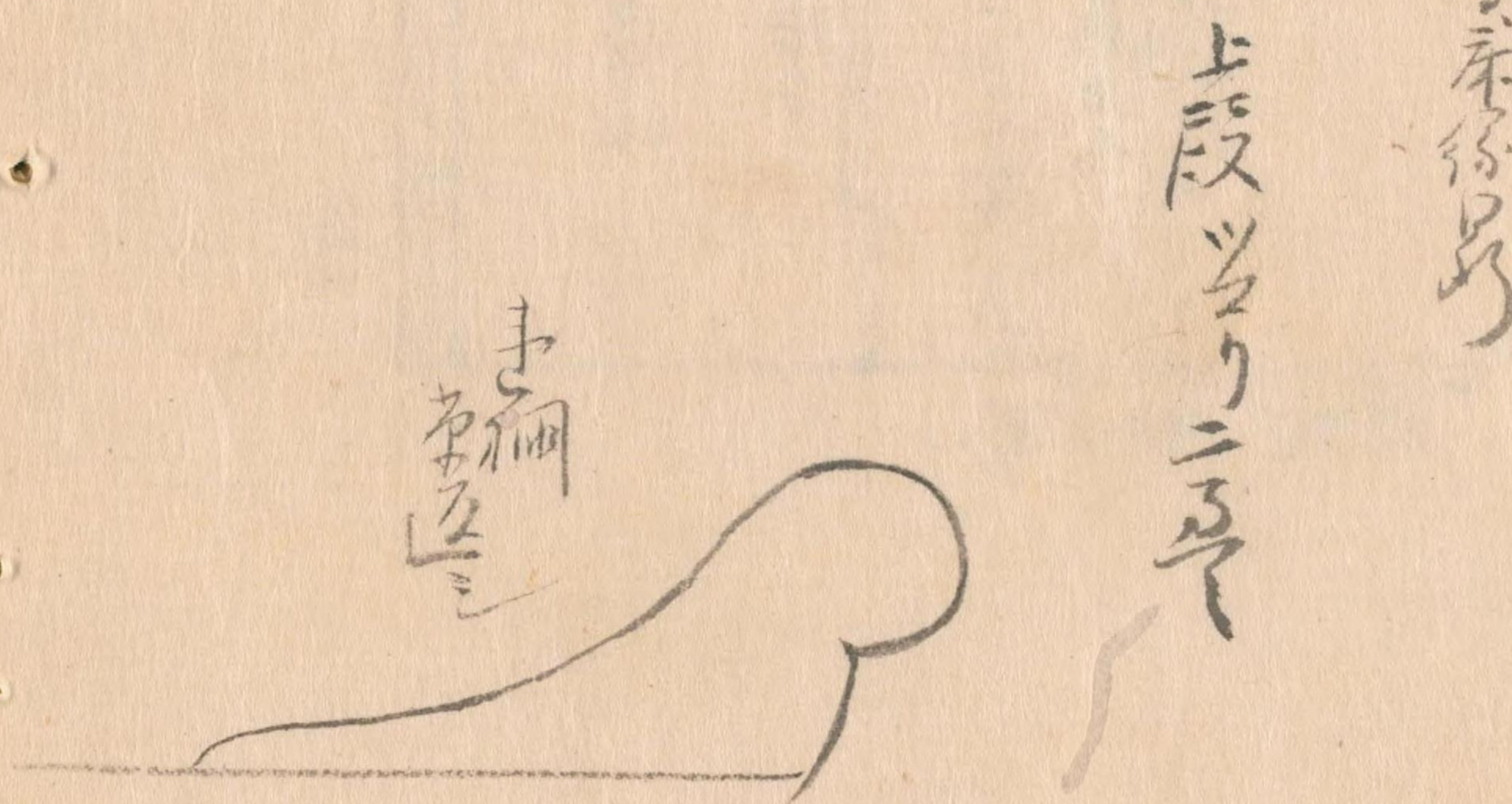
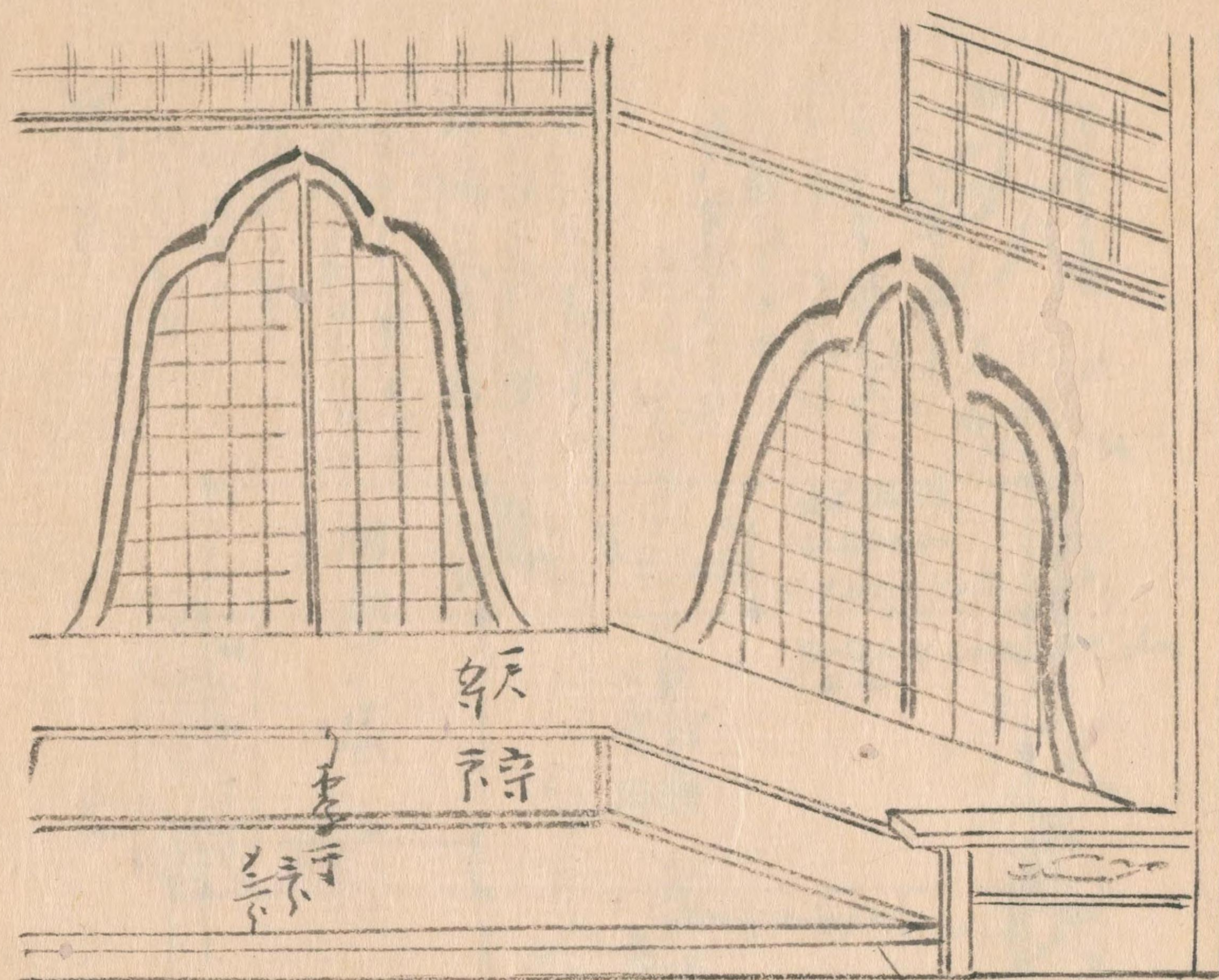
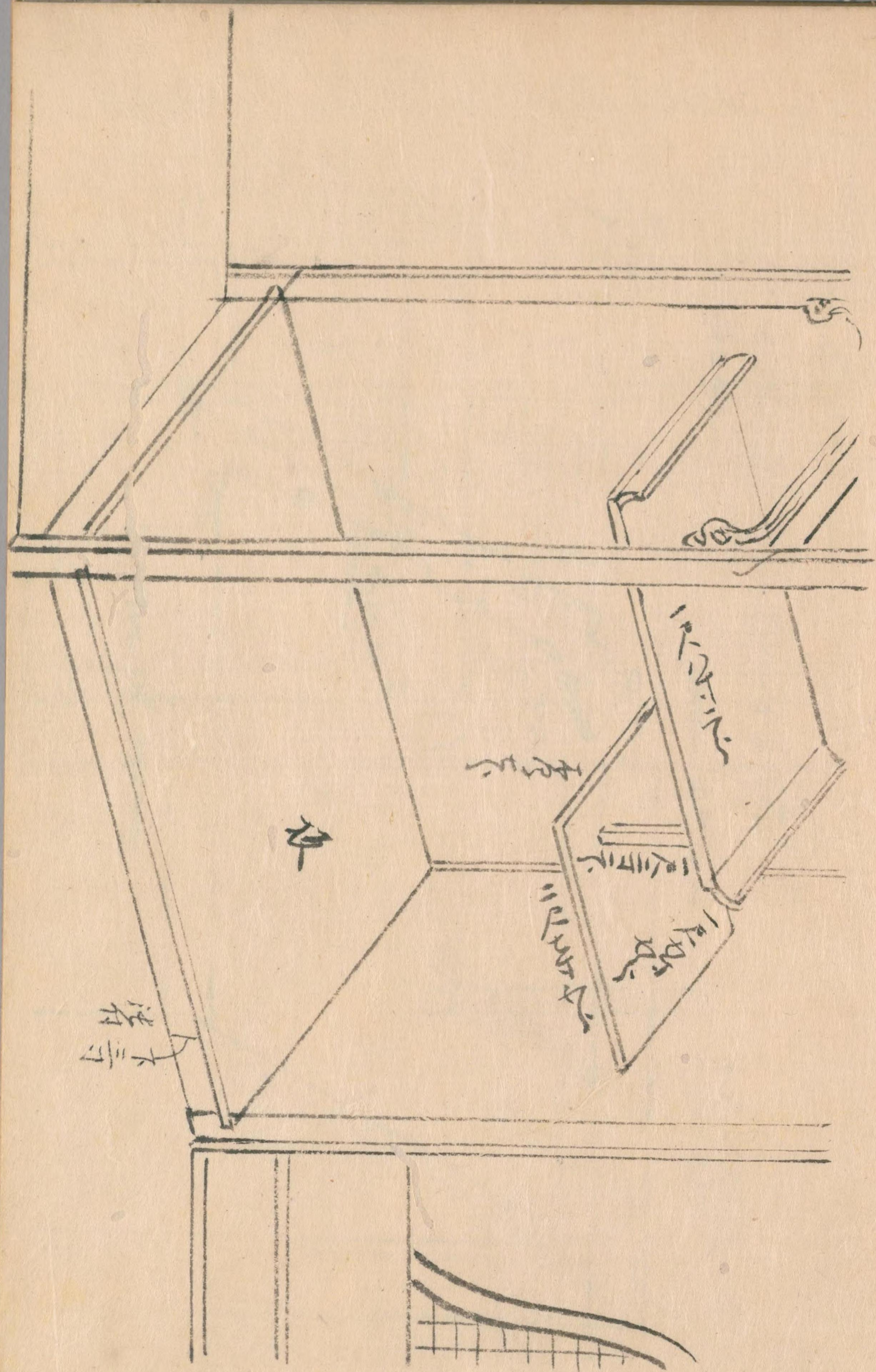
此乃新詠仙翁所創
 其法與古詠歌不同
 其法與古詠歌不同
 其法與古詠歌不同

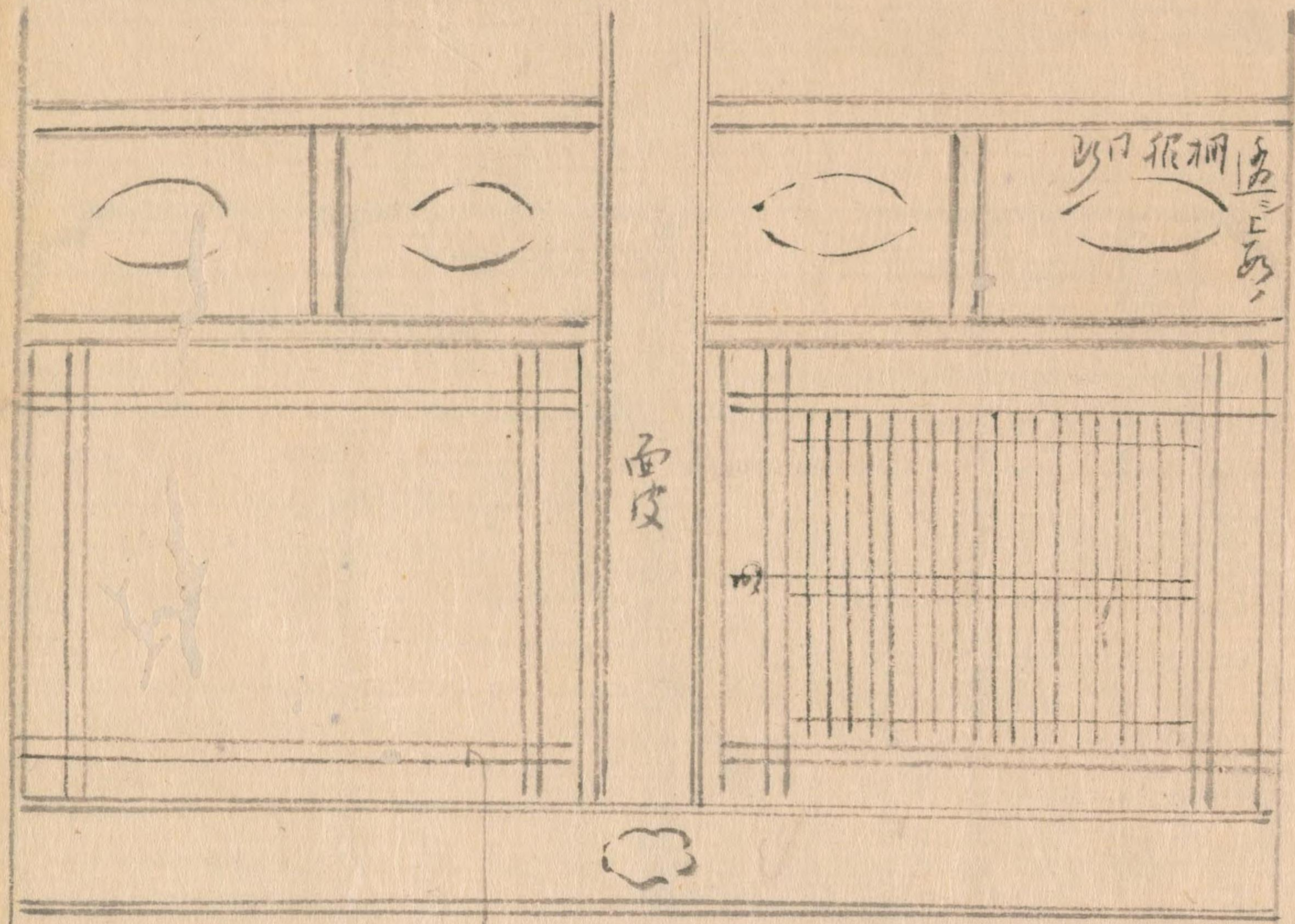
白根

33

此乃新詠仙翁所創
 其法與古詠歌不同
 其法與古詠歌不同
 其法與古詠歌不同



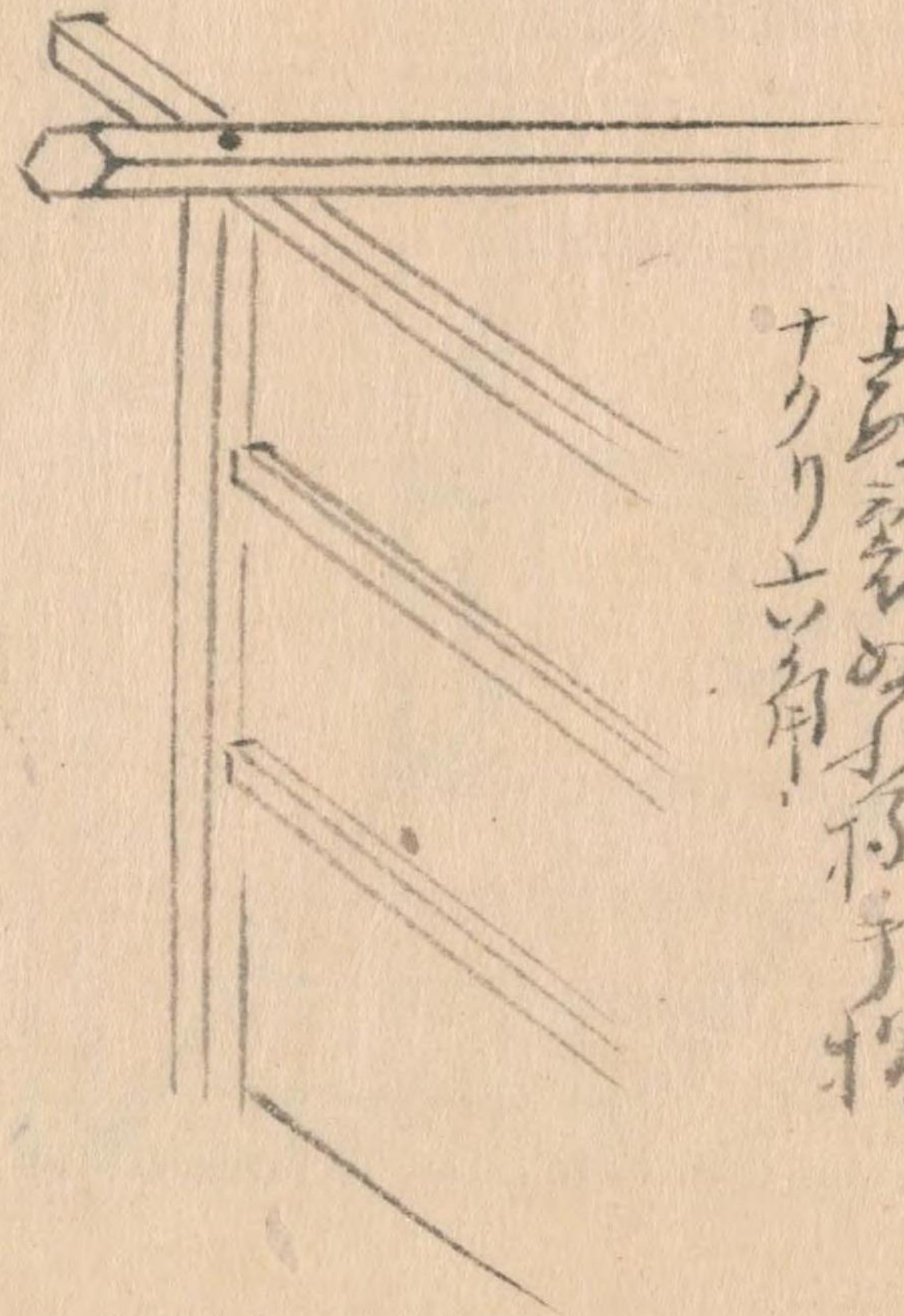




面皮

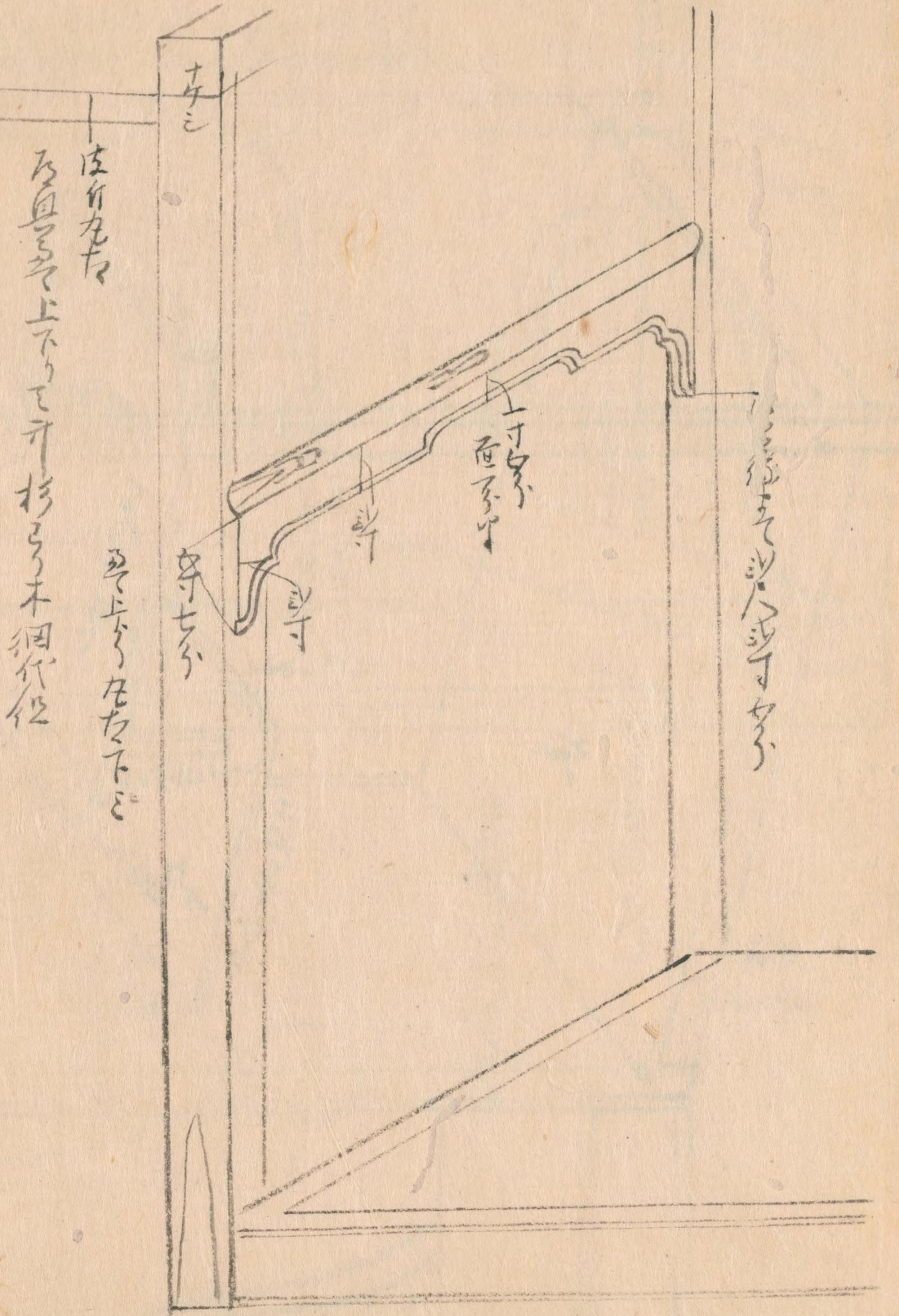
面皮

桐
桐
桐



上
ナク
ナク
ナク

25



上寸

上寸

木細代

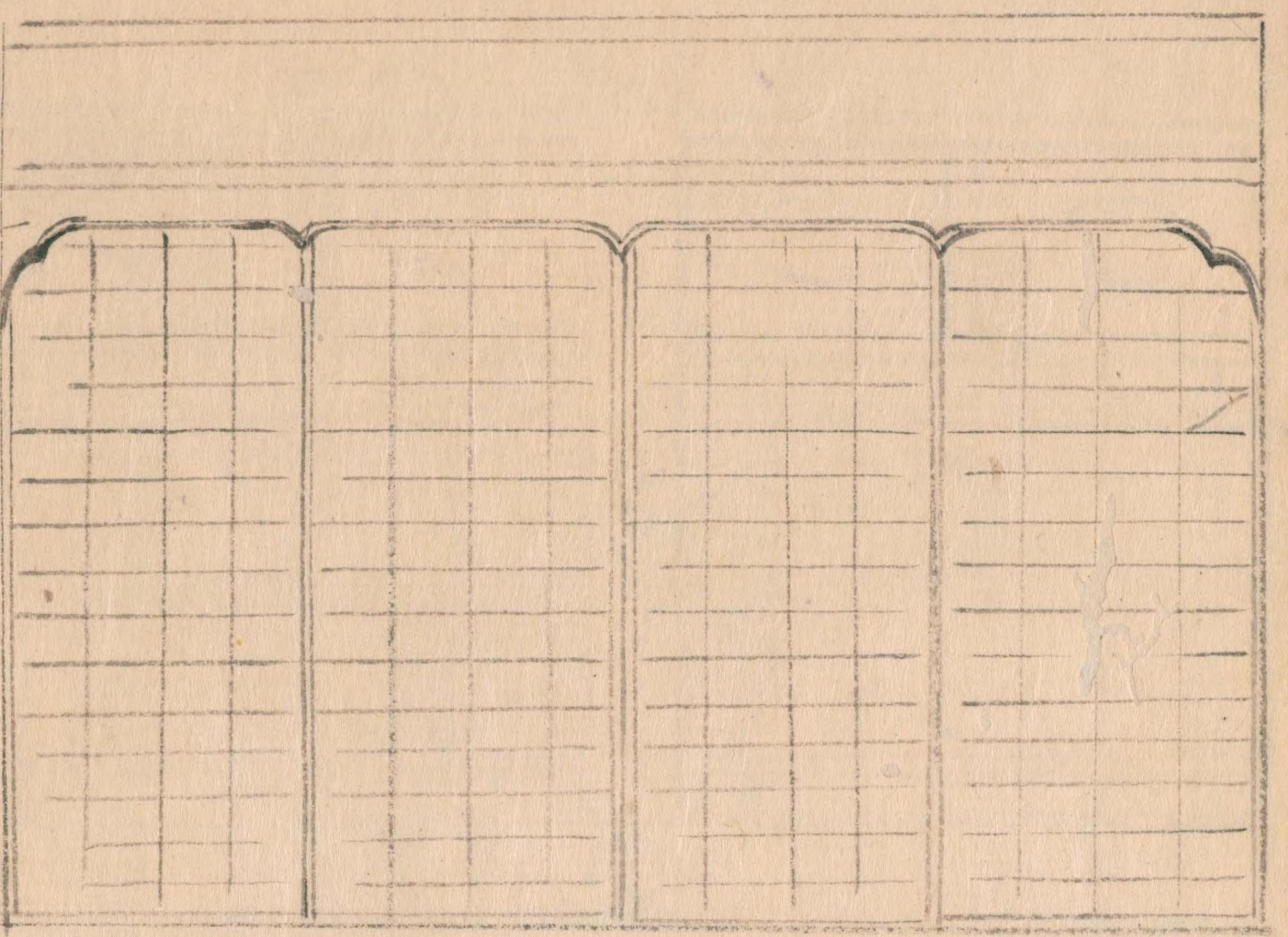
下寸

下寸

上寸

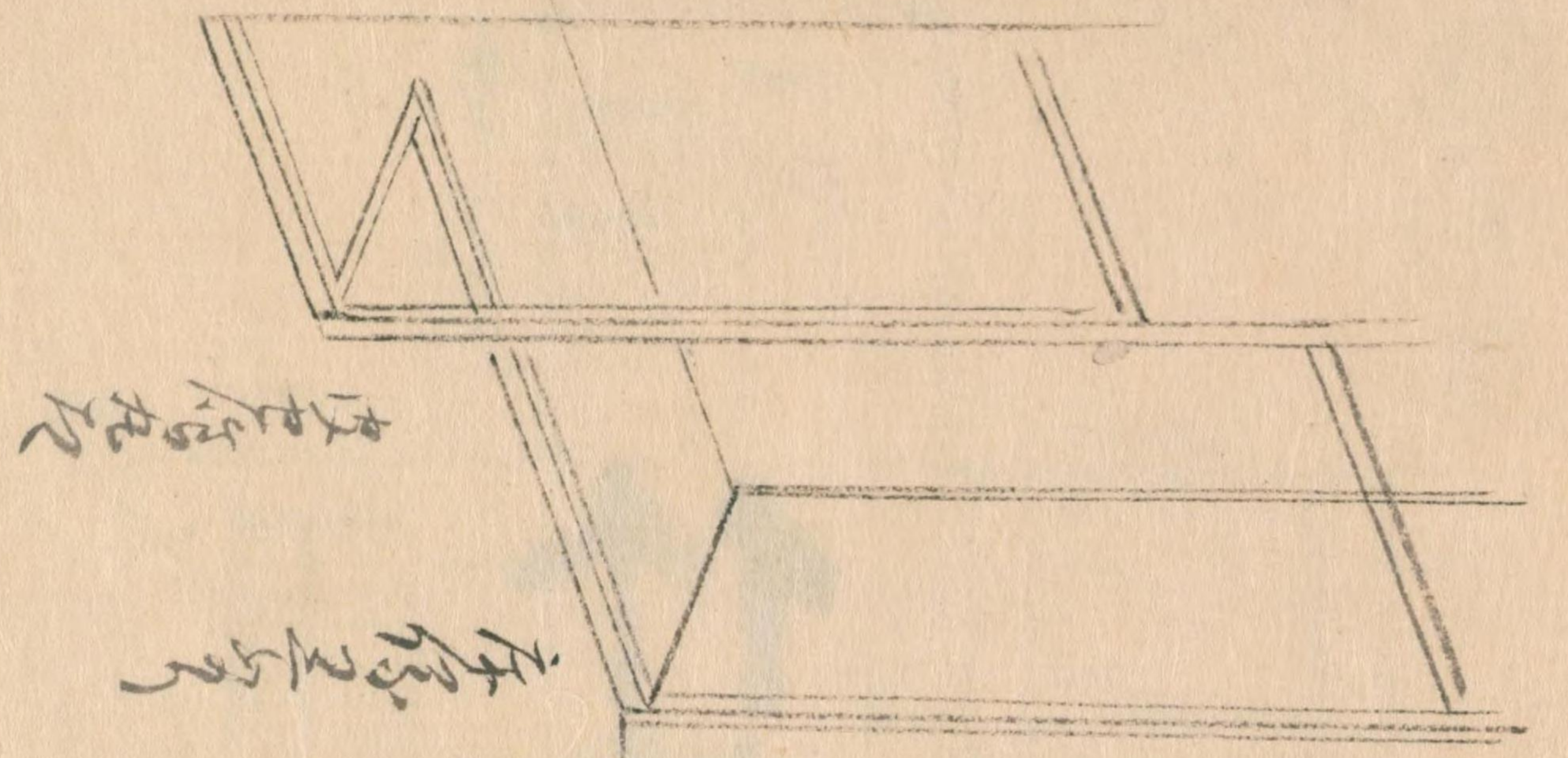
下寸

床書上



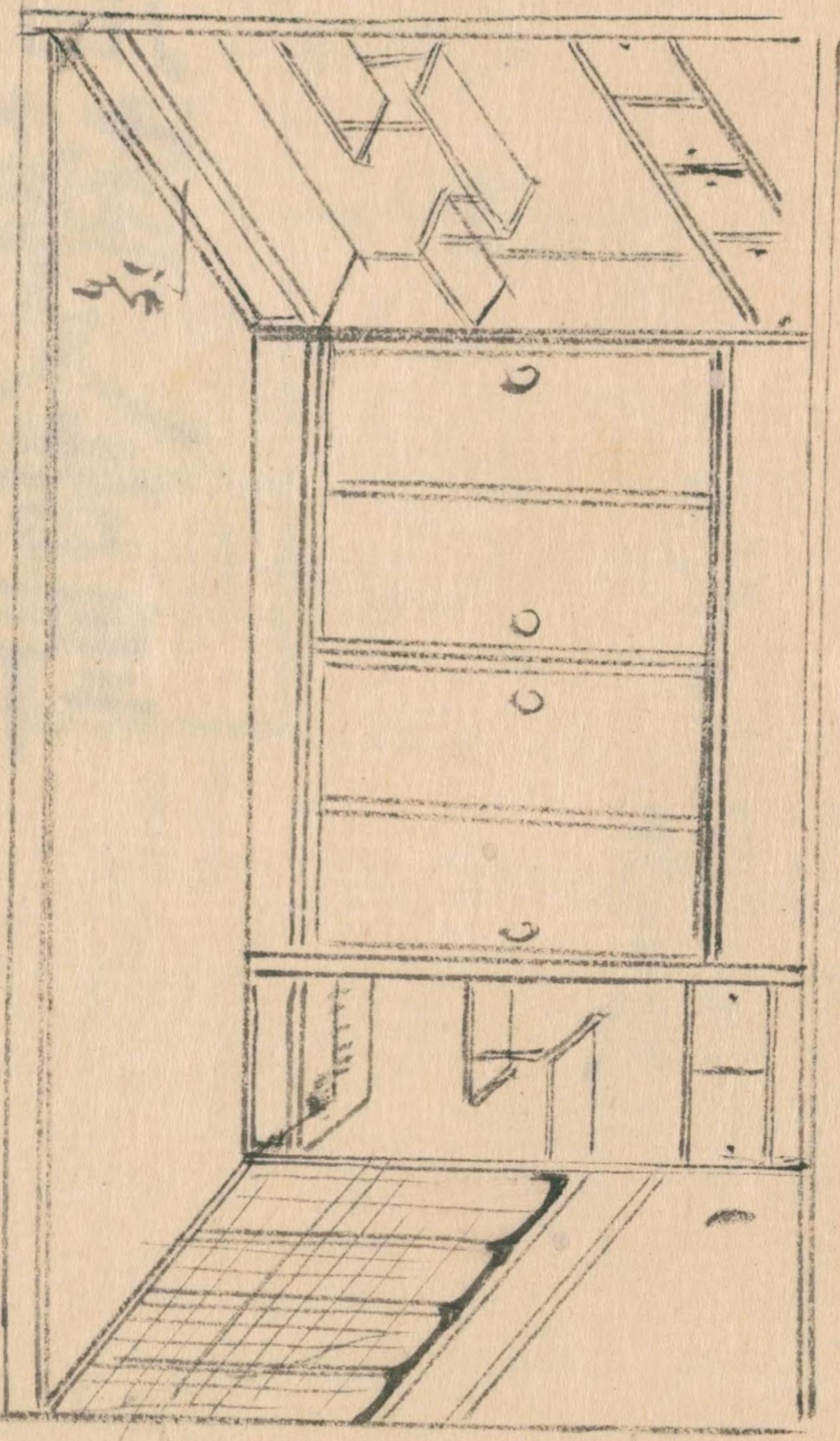
26

26

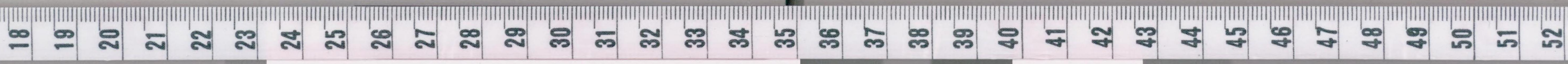


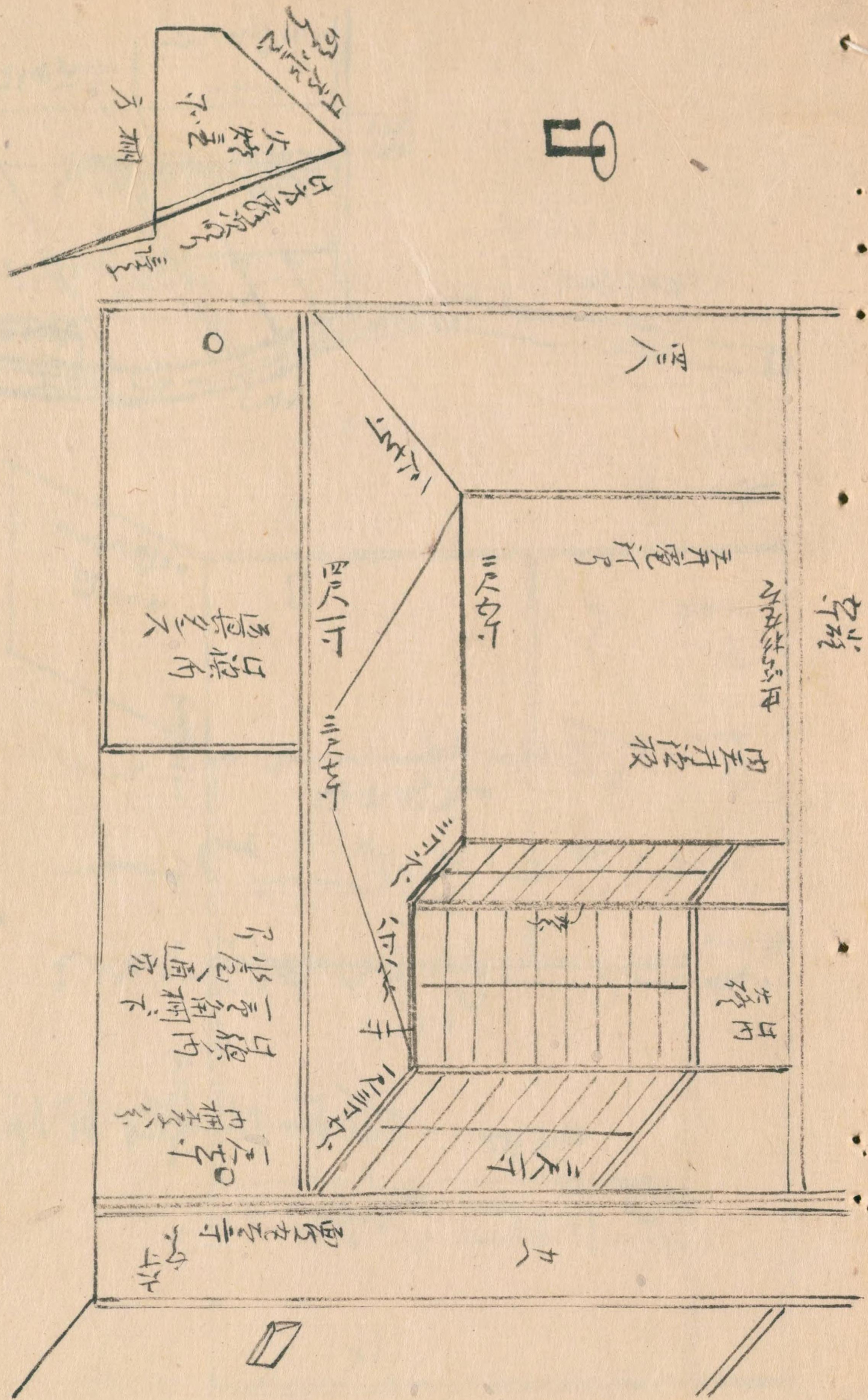
床書上

床書上

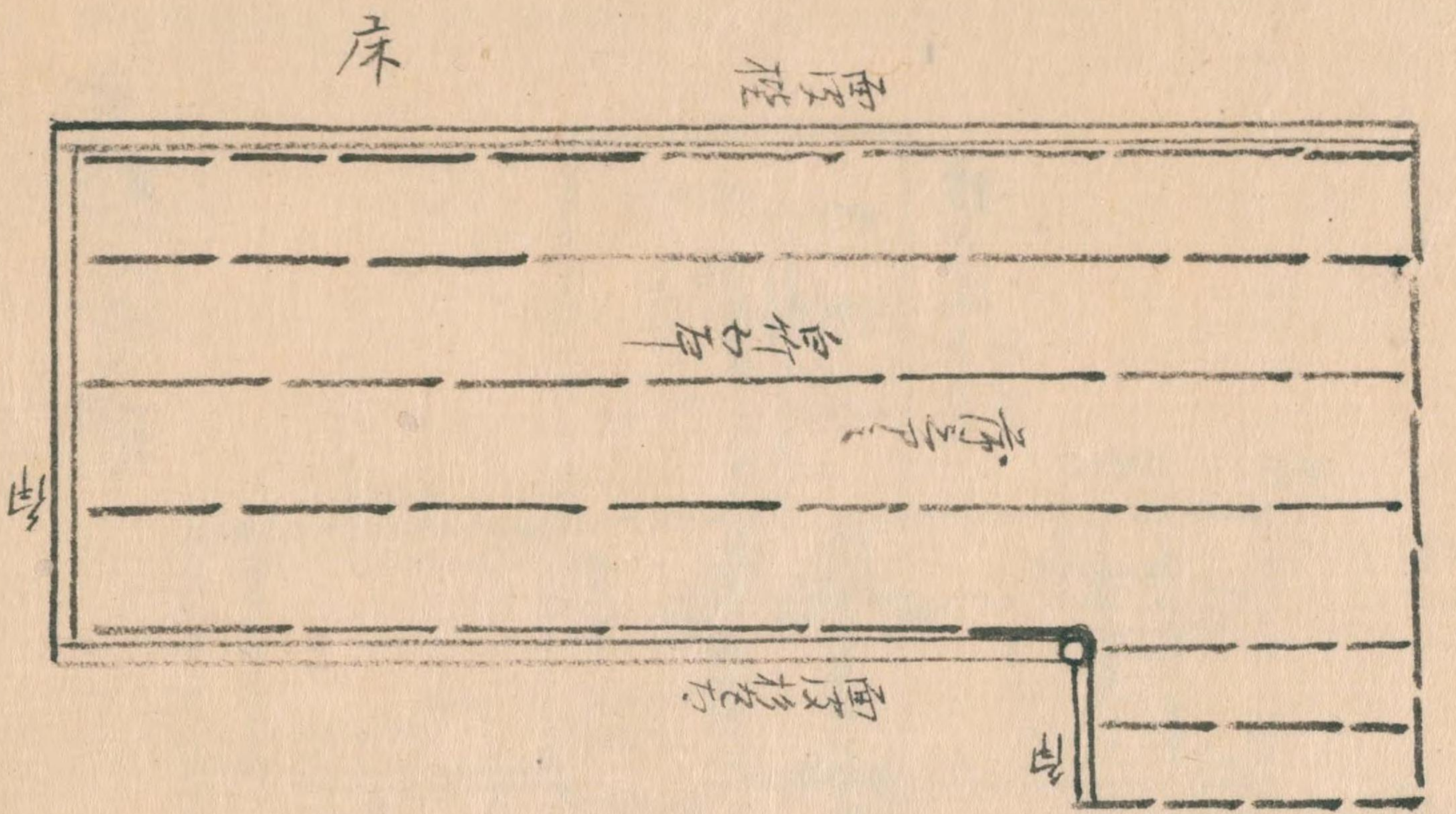


床書上
下
加
加

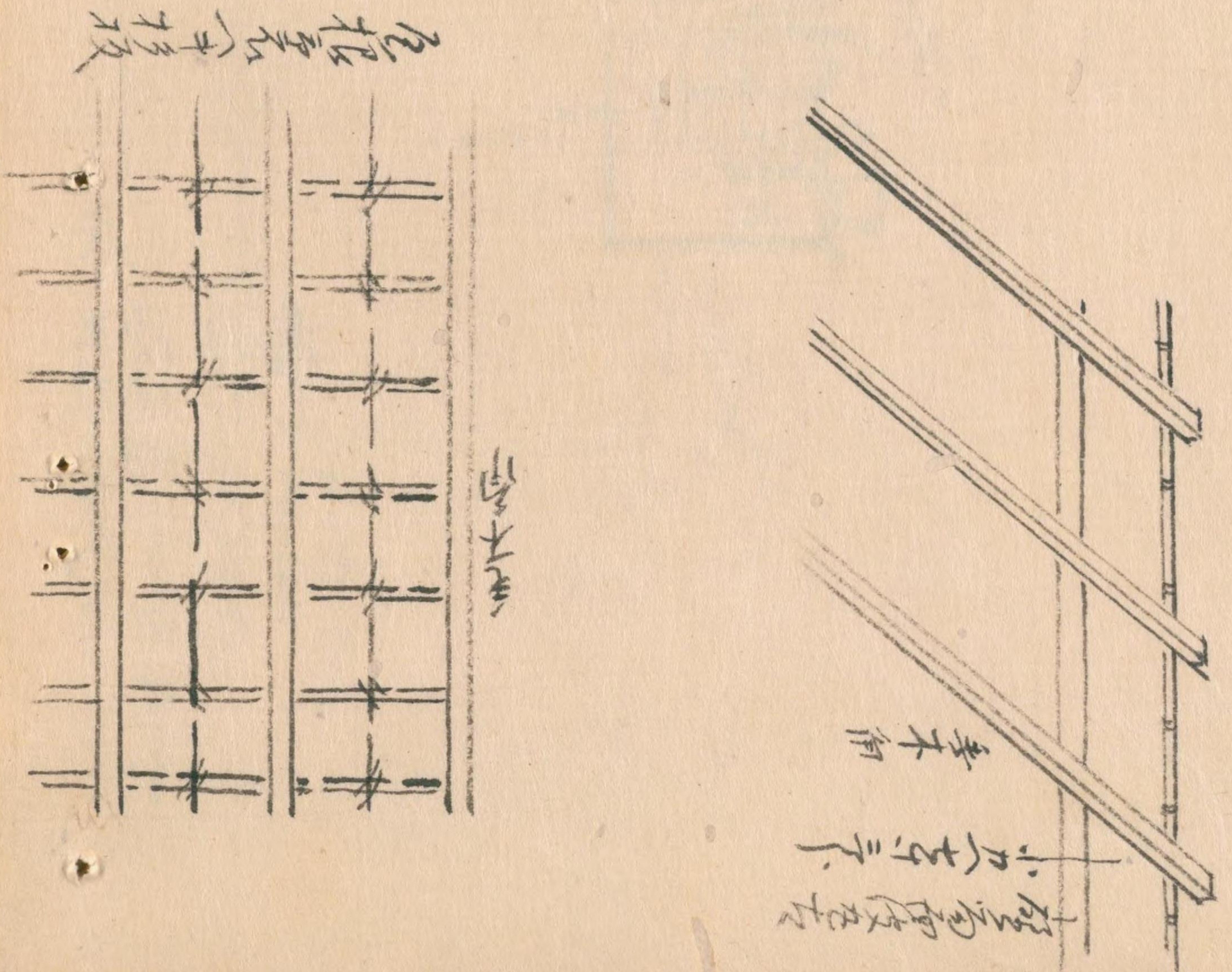




丁



西行中、西行中、西行中



三ノ巻

三ノ巻
三ノ巻
三ノ巻

詠言目録

三ノ巻

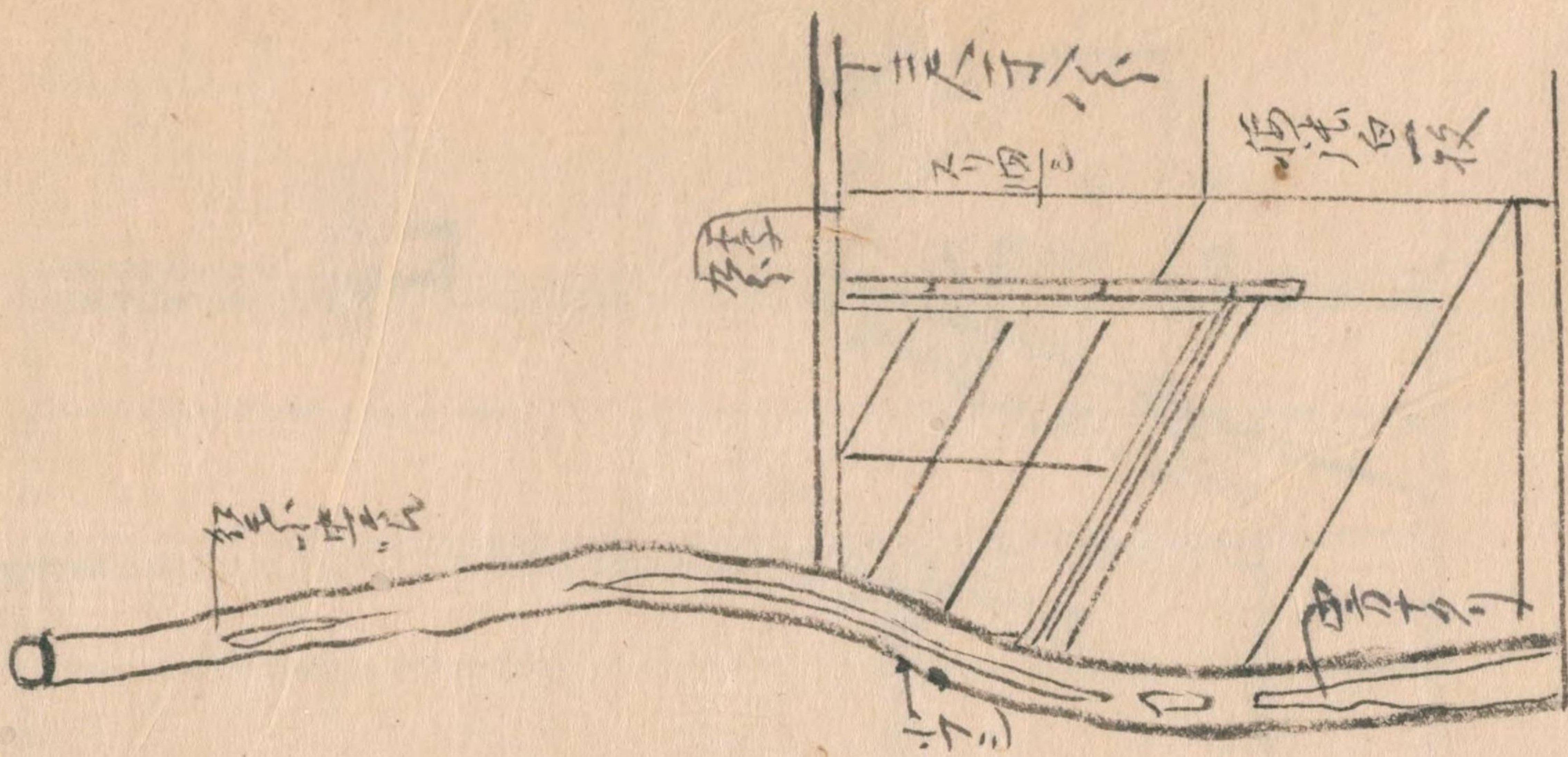
三ノ巻

三ノ巻

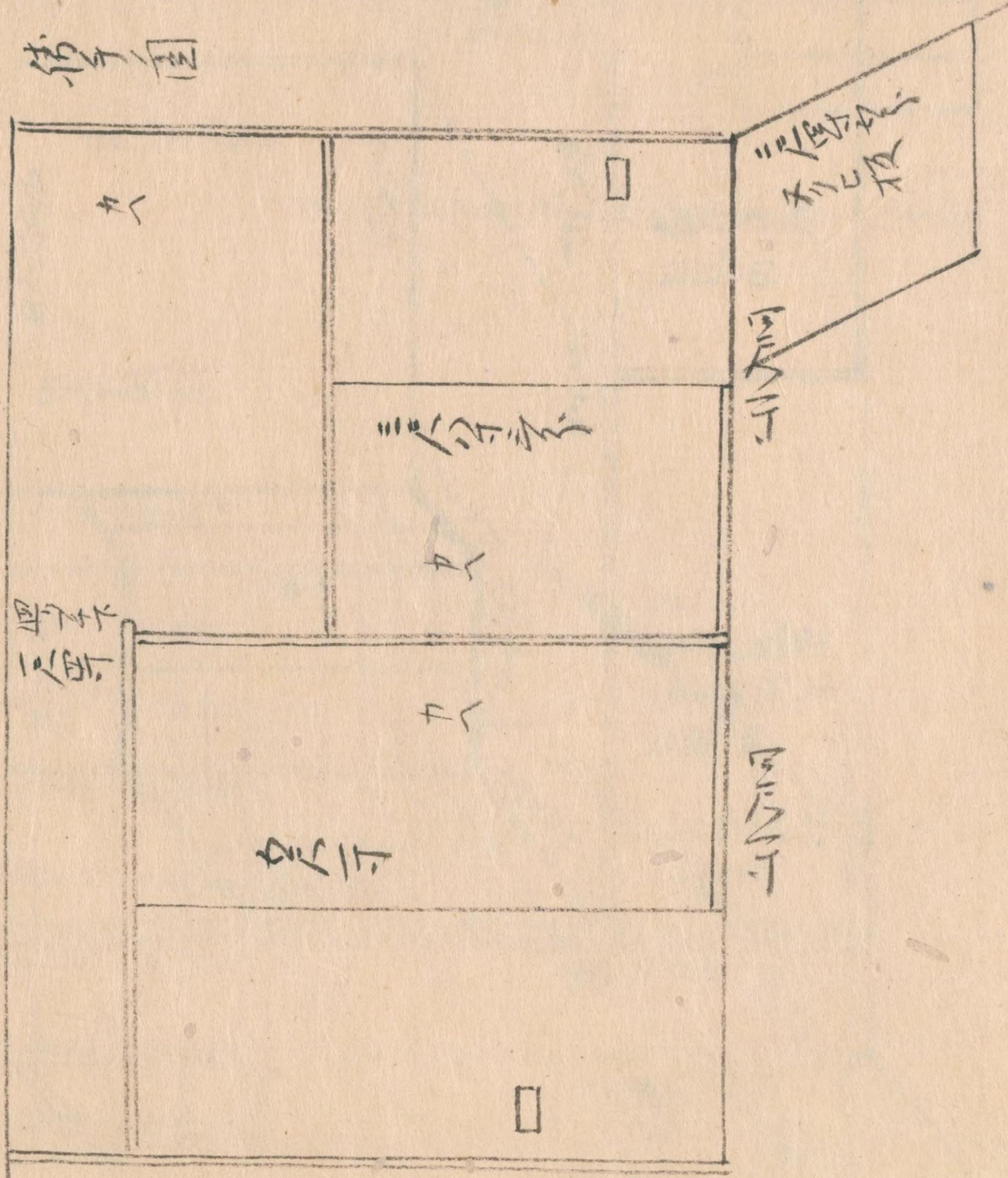
三ノ巻

三ノ巻

89



三ノ巻



解のあまり
 不浄笑に
 松尾を祀るあつる志くふれ結光

日守り人 不浄を笑ふに 何れぞ

呉海ら様も千年 内にお早同し念はく不浄を笑

ふ書ももく砂付らり

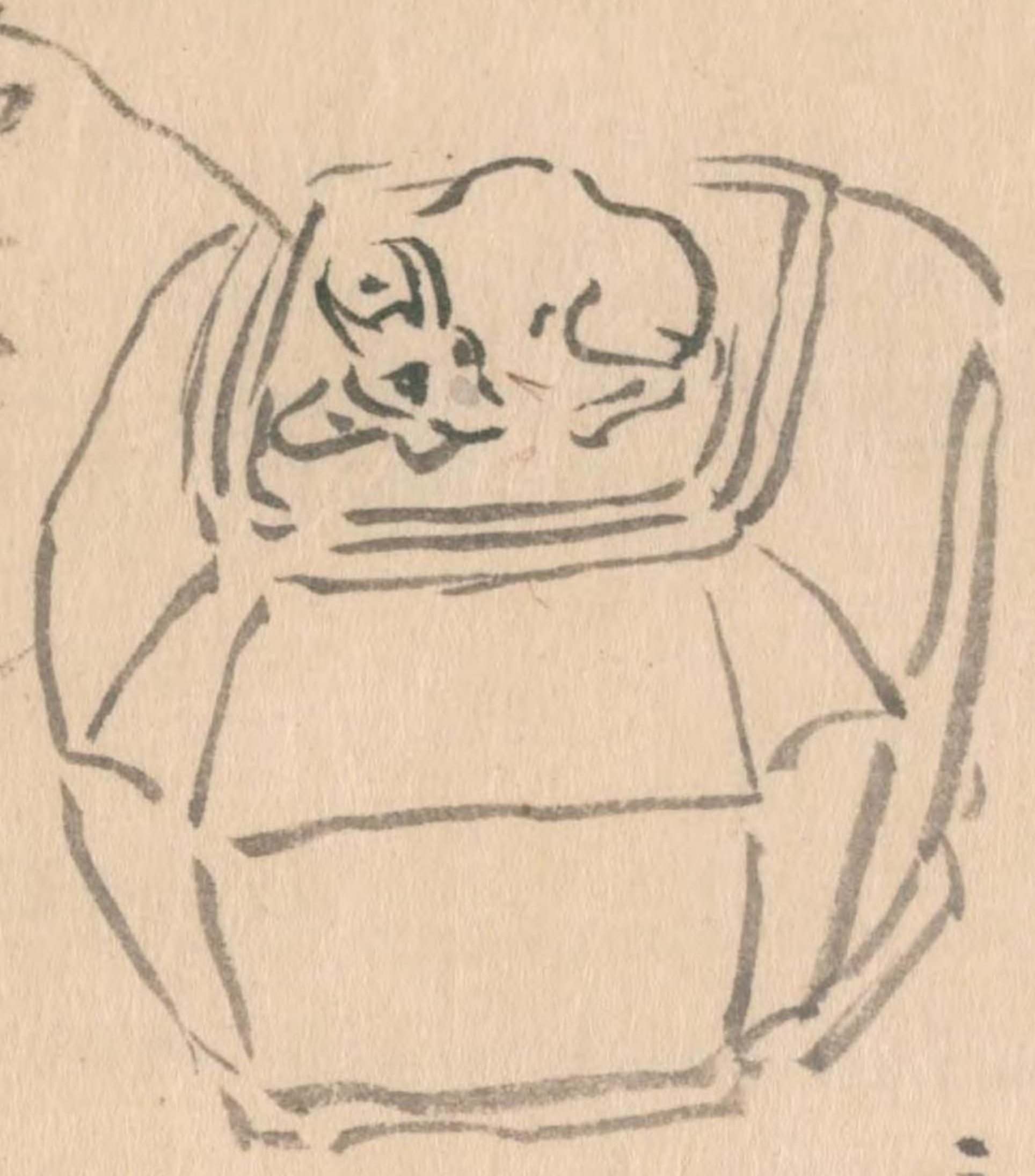
た地も同しあしあかり

此珠青におおる言録と

唱耳なり

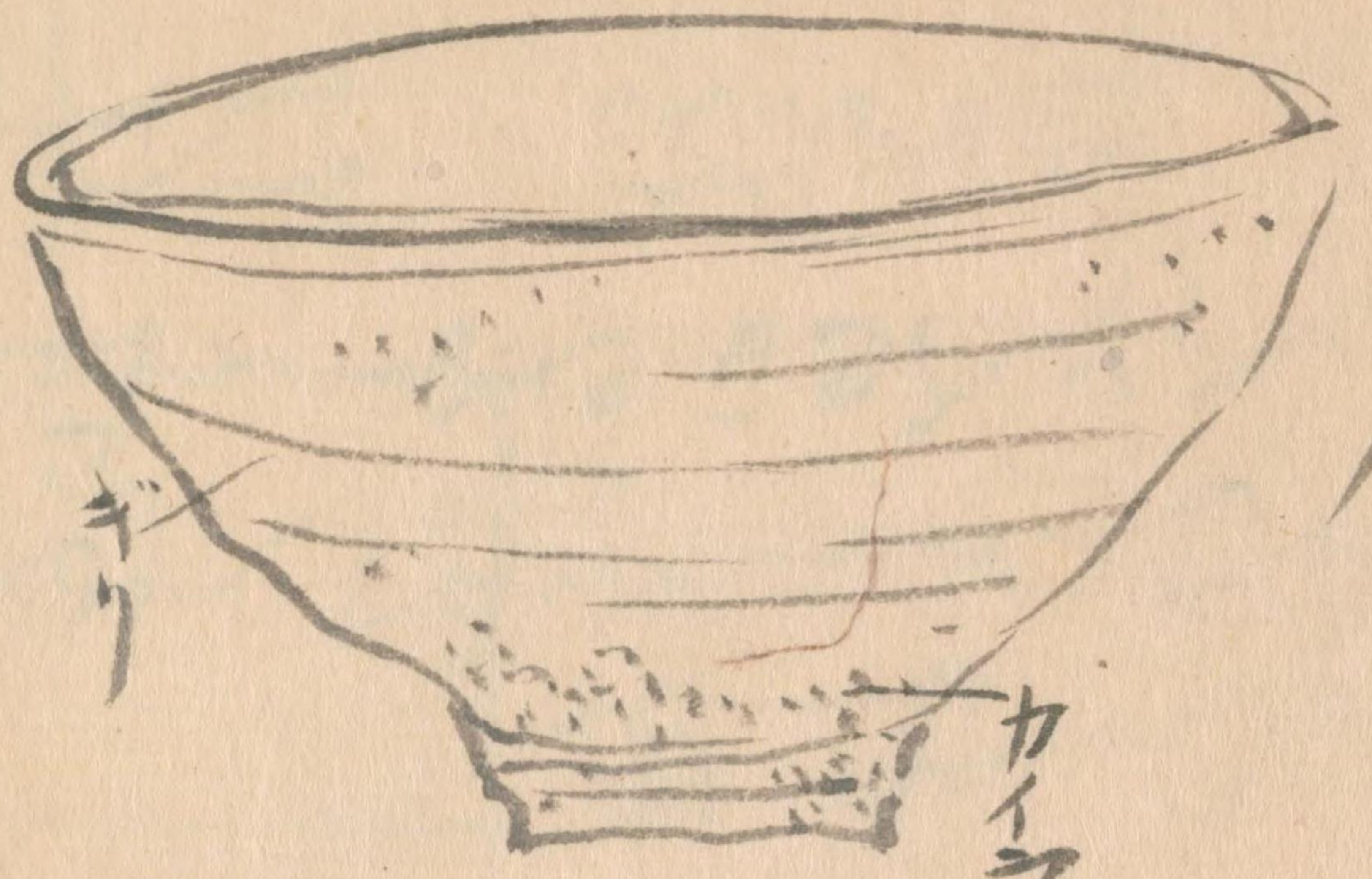
笑北も千年と大門口に

不浄を笑ふに



命に不浄に

ろ井を ぶきのふ



カイラキ

大井土固年 俗く茶碗の作也

目より ち書と三糸介より

此珠青におおる言録と

る書よりリス茶碗に

おもしろい茶碗に

の書つて古きものいふに 流

とくし

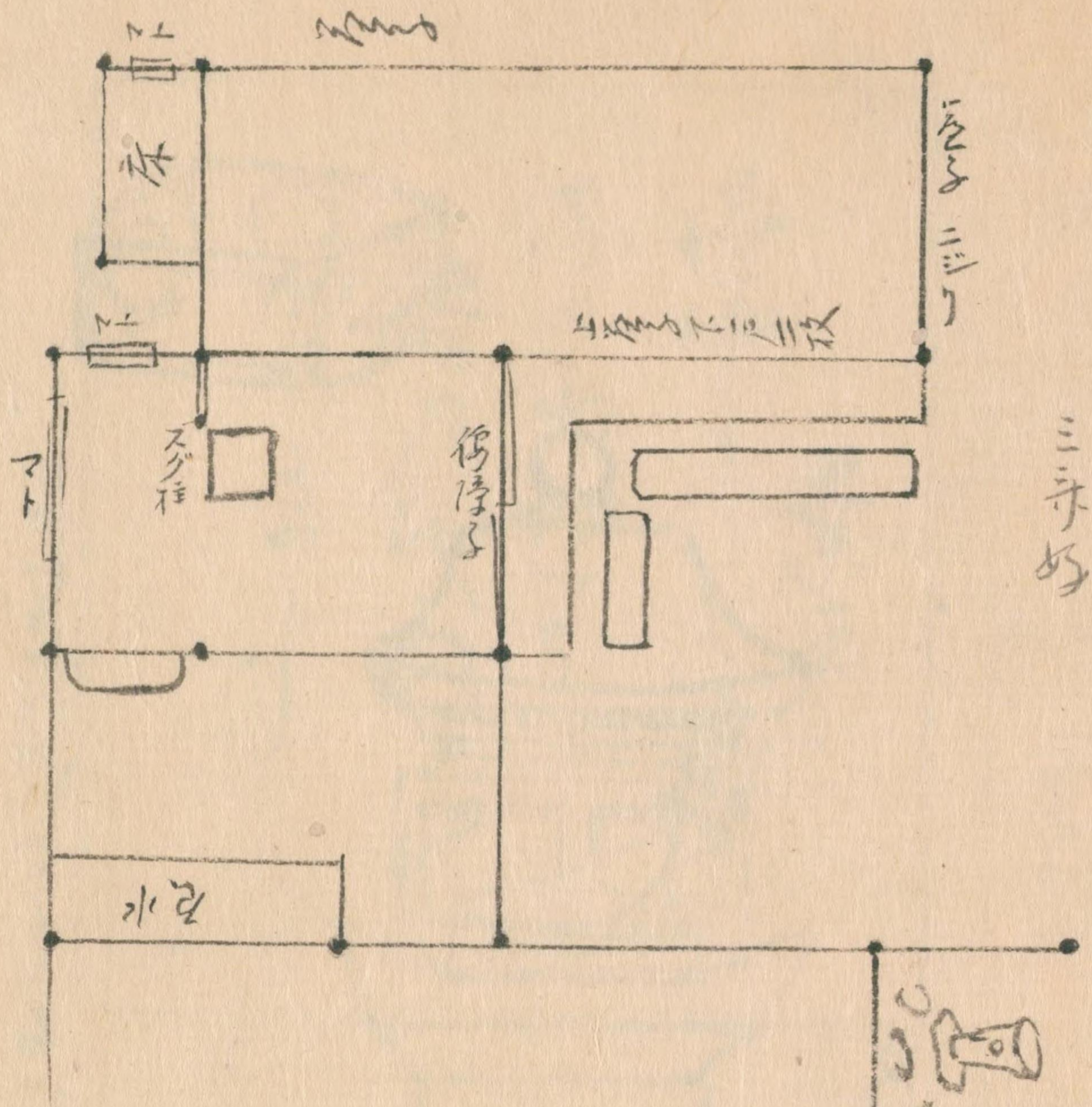
信々念もえり

信々念もえり 不浄を笑ふに

あまりあまり 信々念もえり

不浄を笑ふに

不浄を笑ふに



三斗好
 三斗好
 三斗好



三斗好

三斗好

41

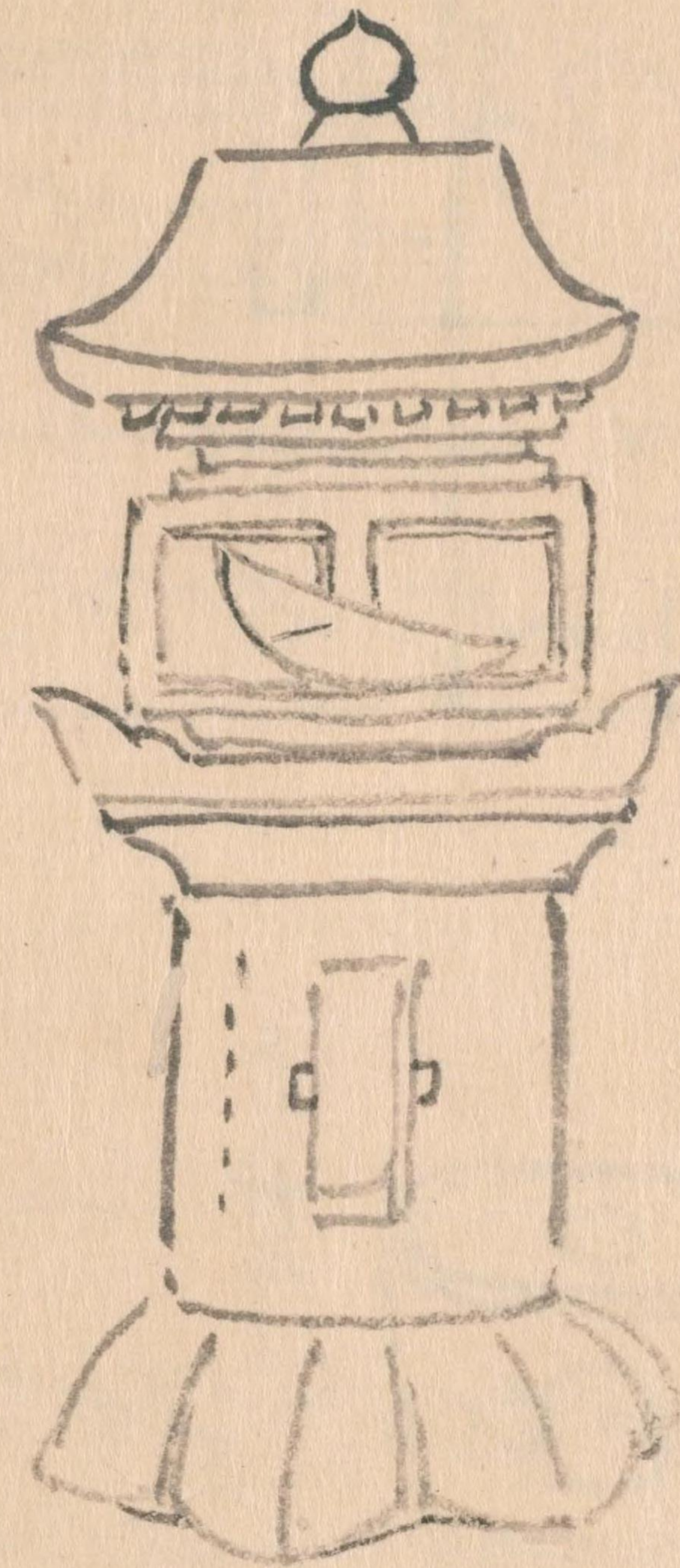
三斗好
 三斗好
 三斗好
 三斗好

三斗好
 三斗好
 三斗好



世中まじりて櫻の
 ふりやせえ
 春乃はのゆ
 かま

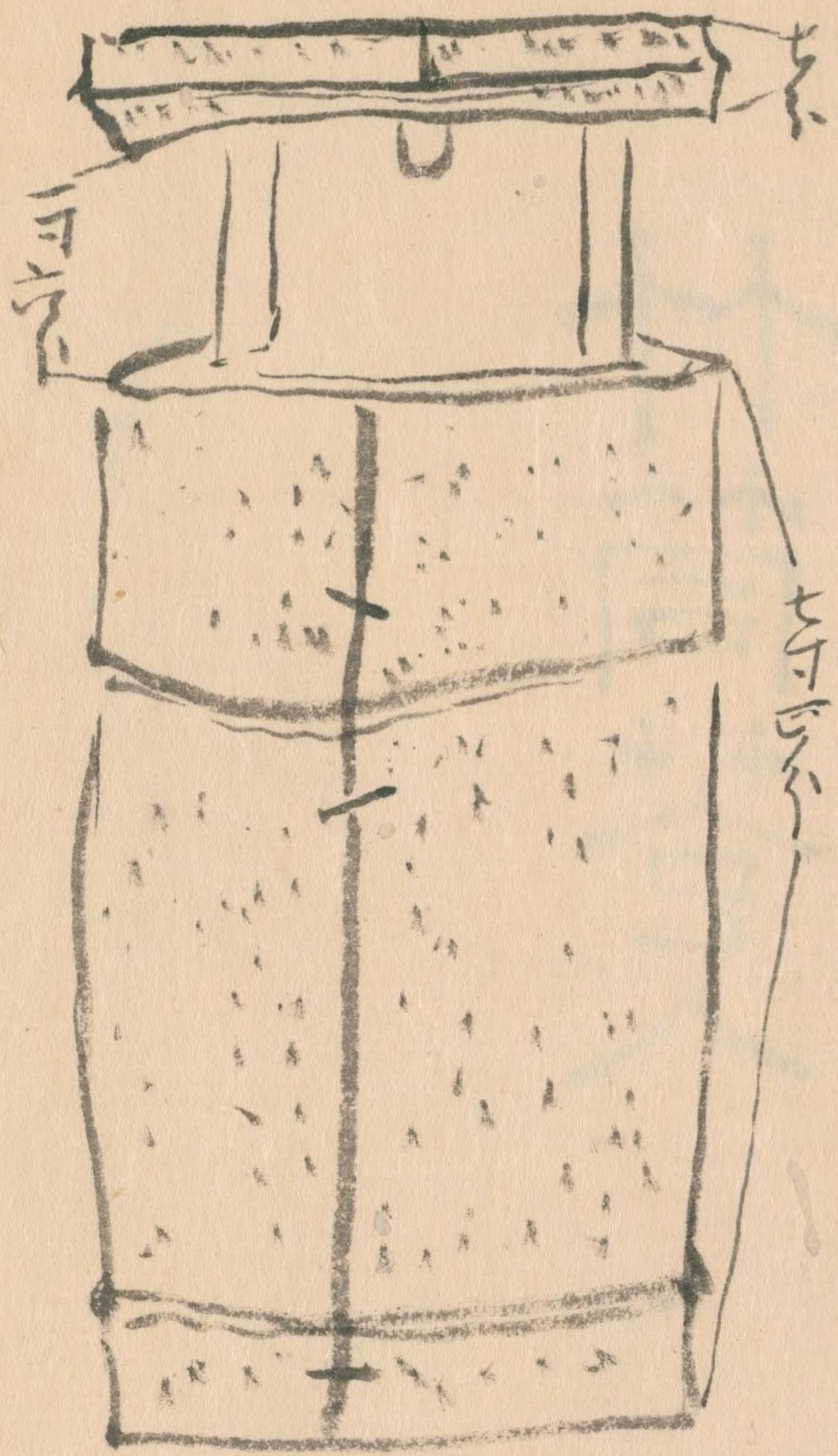
世中まじりて 宗南筆



文明六年甲午正月八日

平山正徳院の石燈籠





上蓋

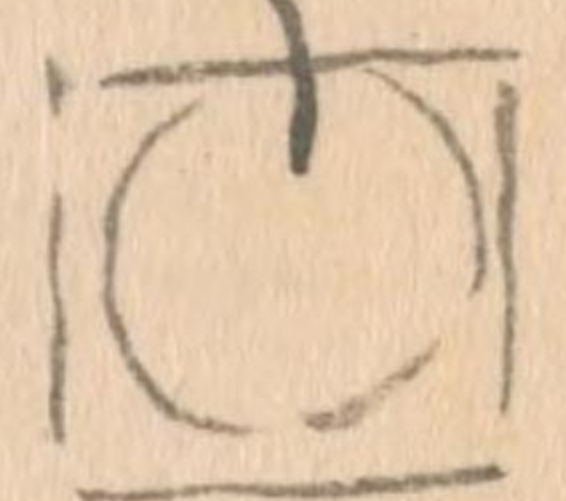
身

とら

け歌

宗甫筆

筆冢記



43

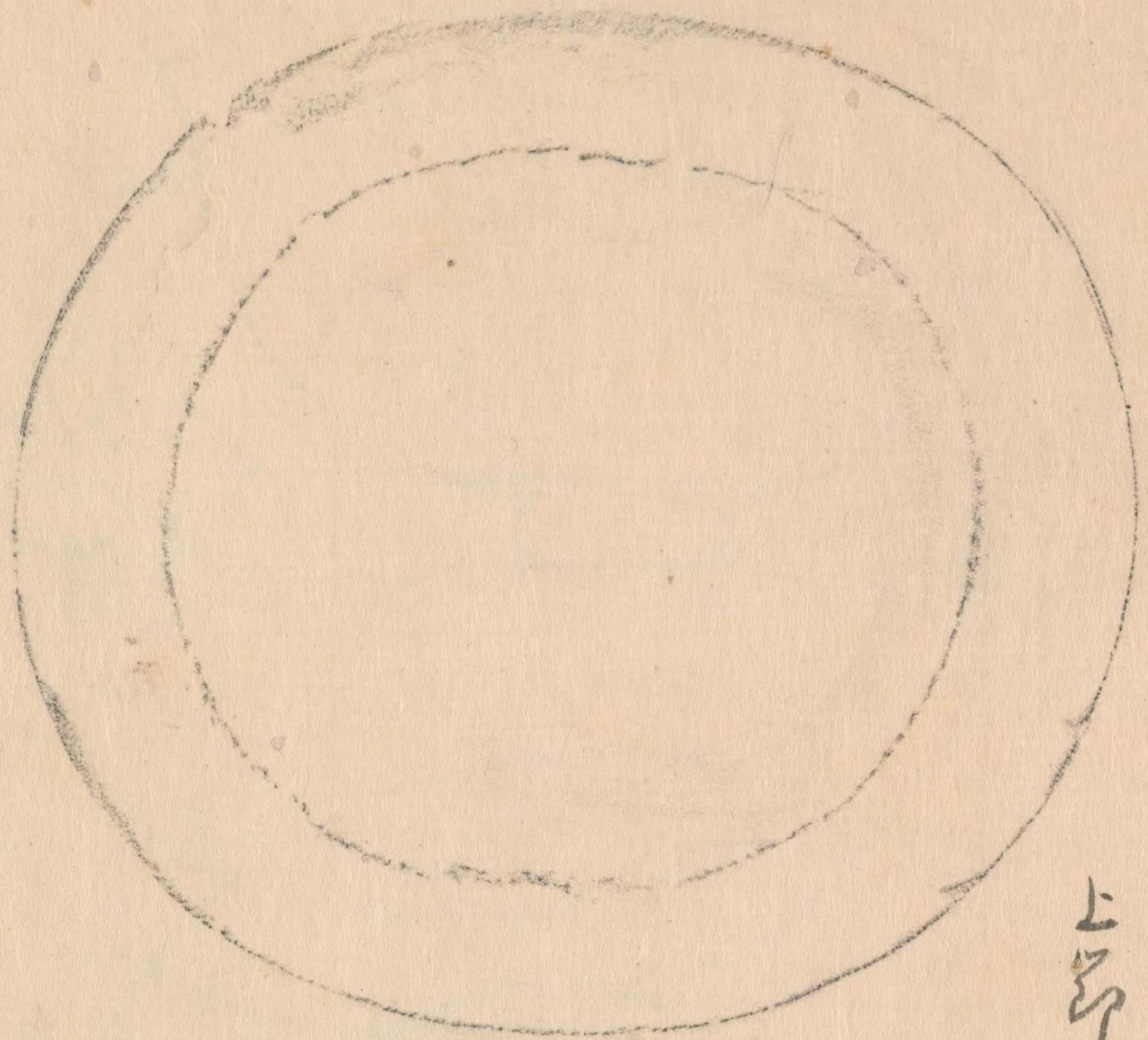
世中よこへて櫻のふりせえ
春乃のけからま

葉平

此歌

小色紙

宗甫筆

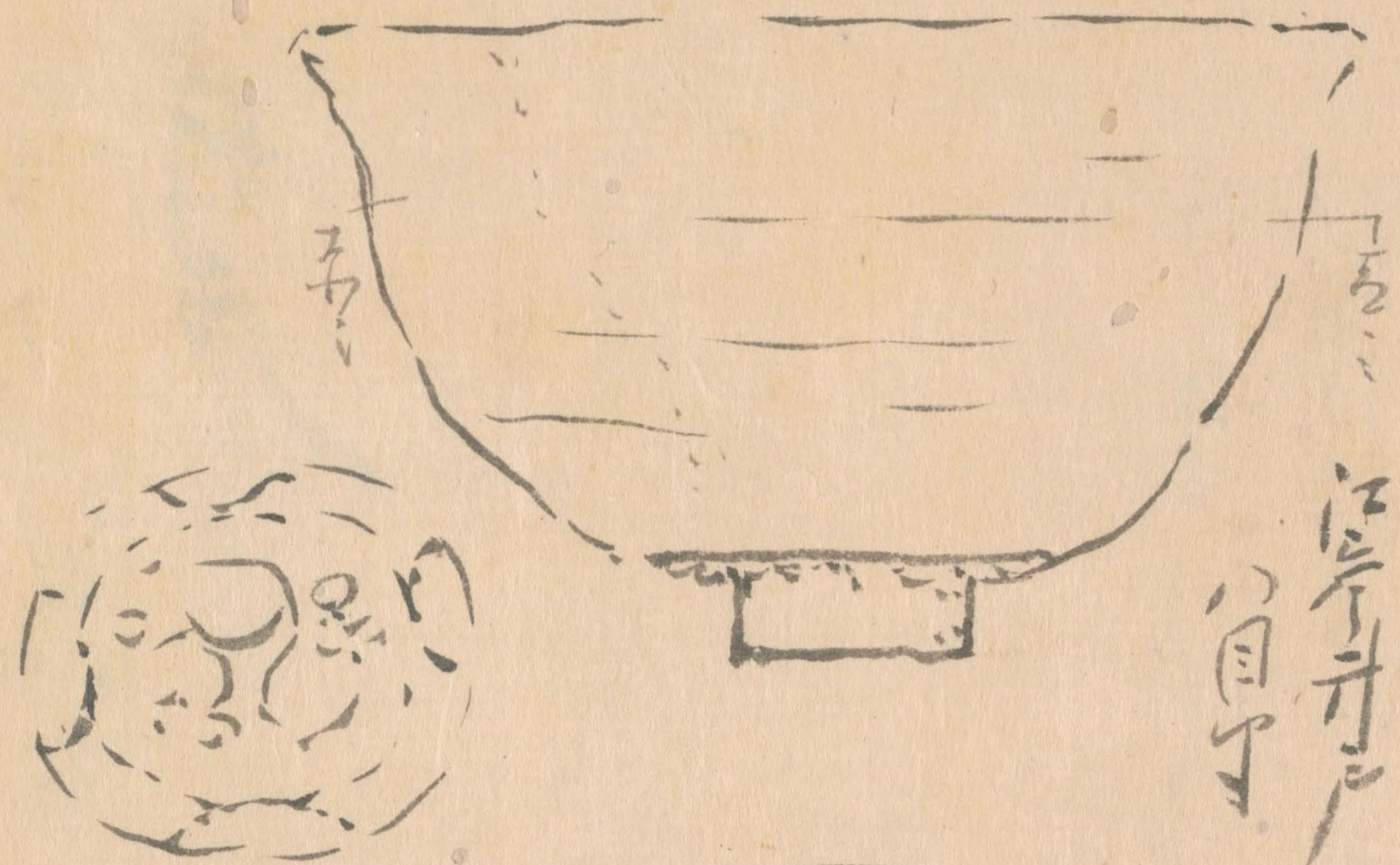


上

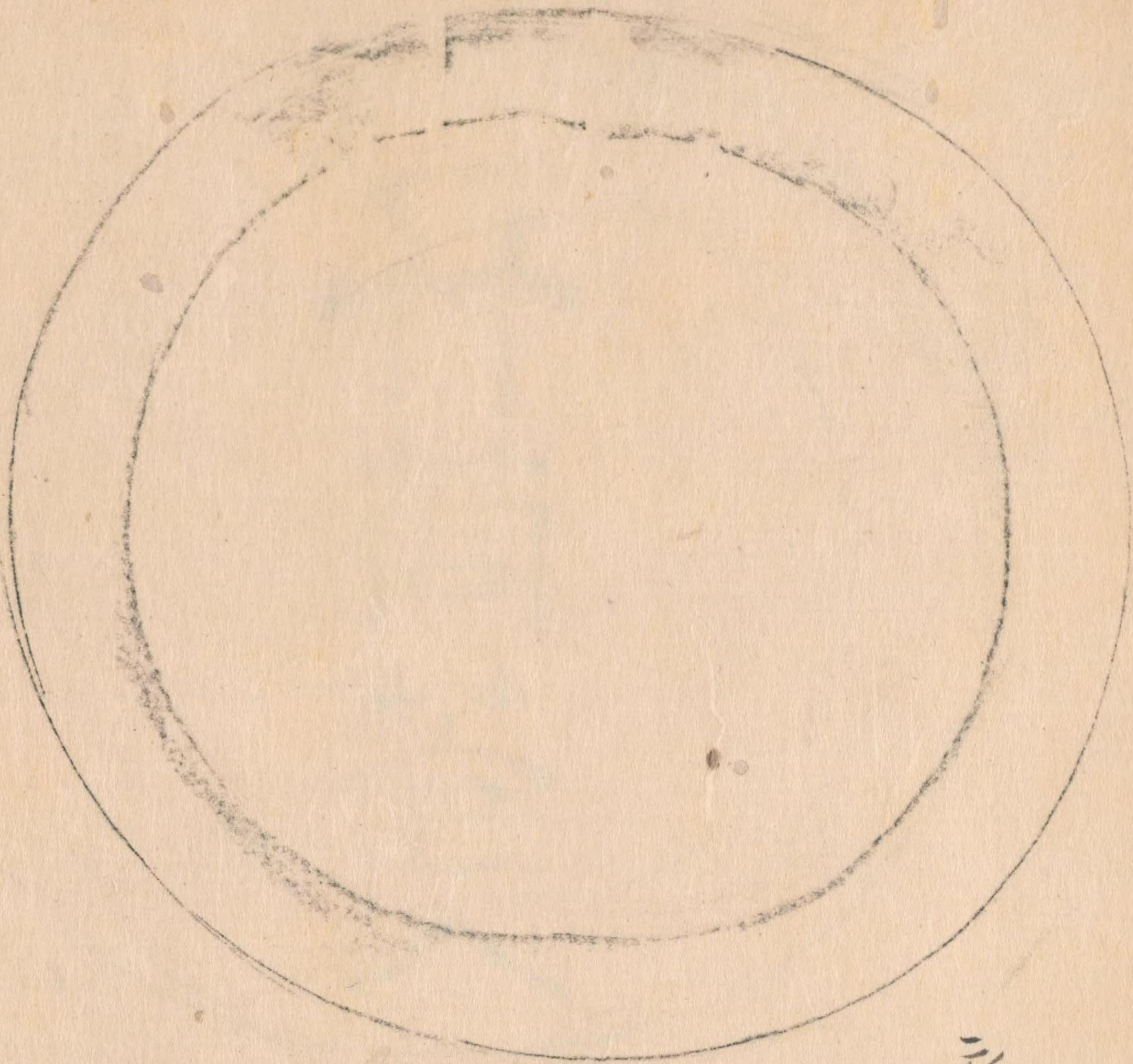
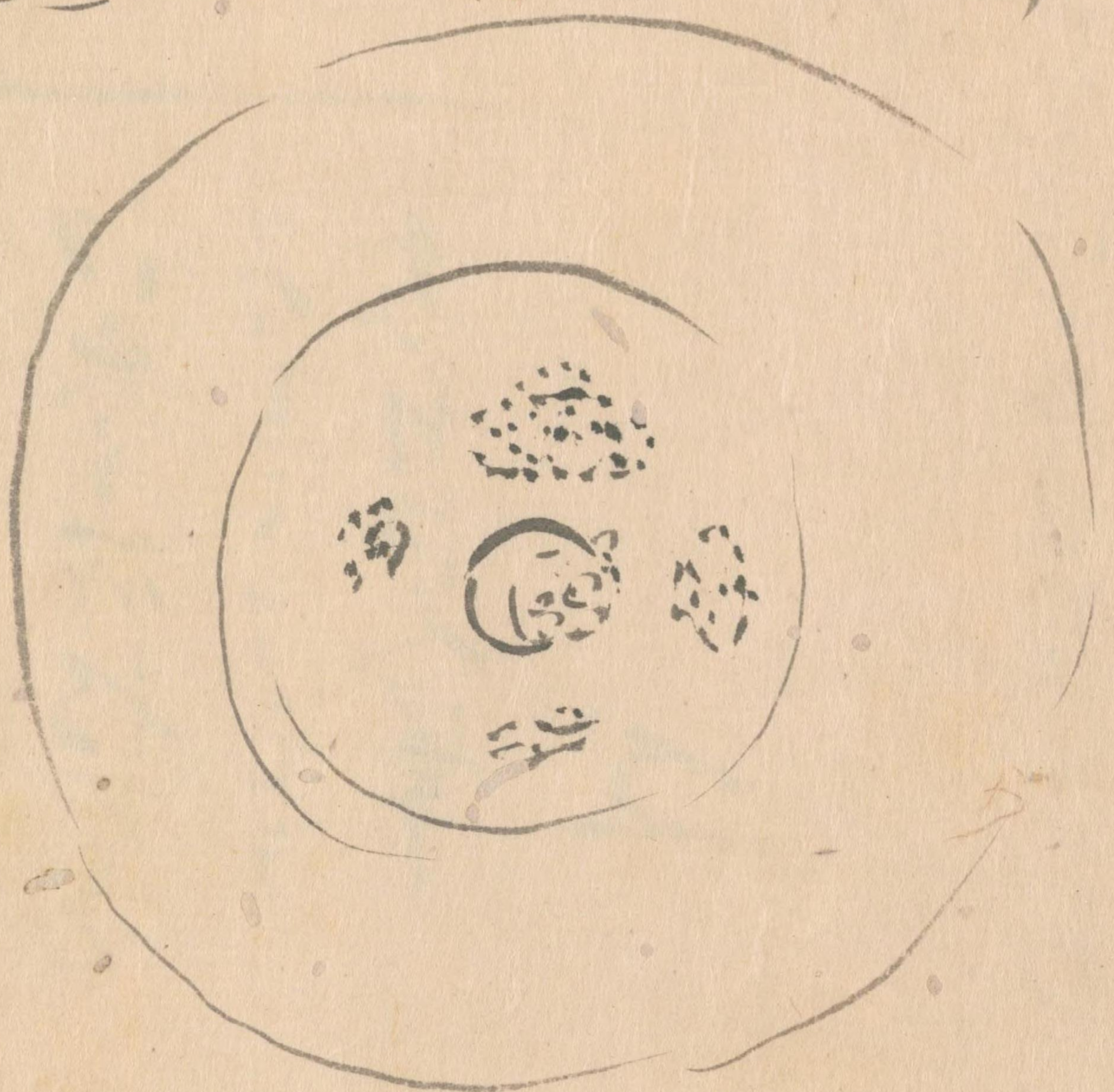


竹筒蒼入

三篇



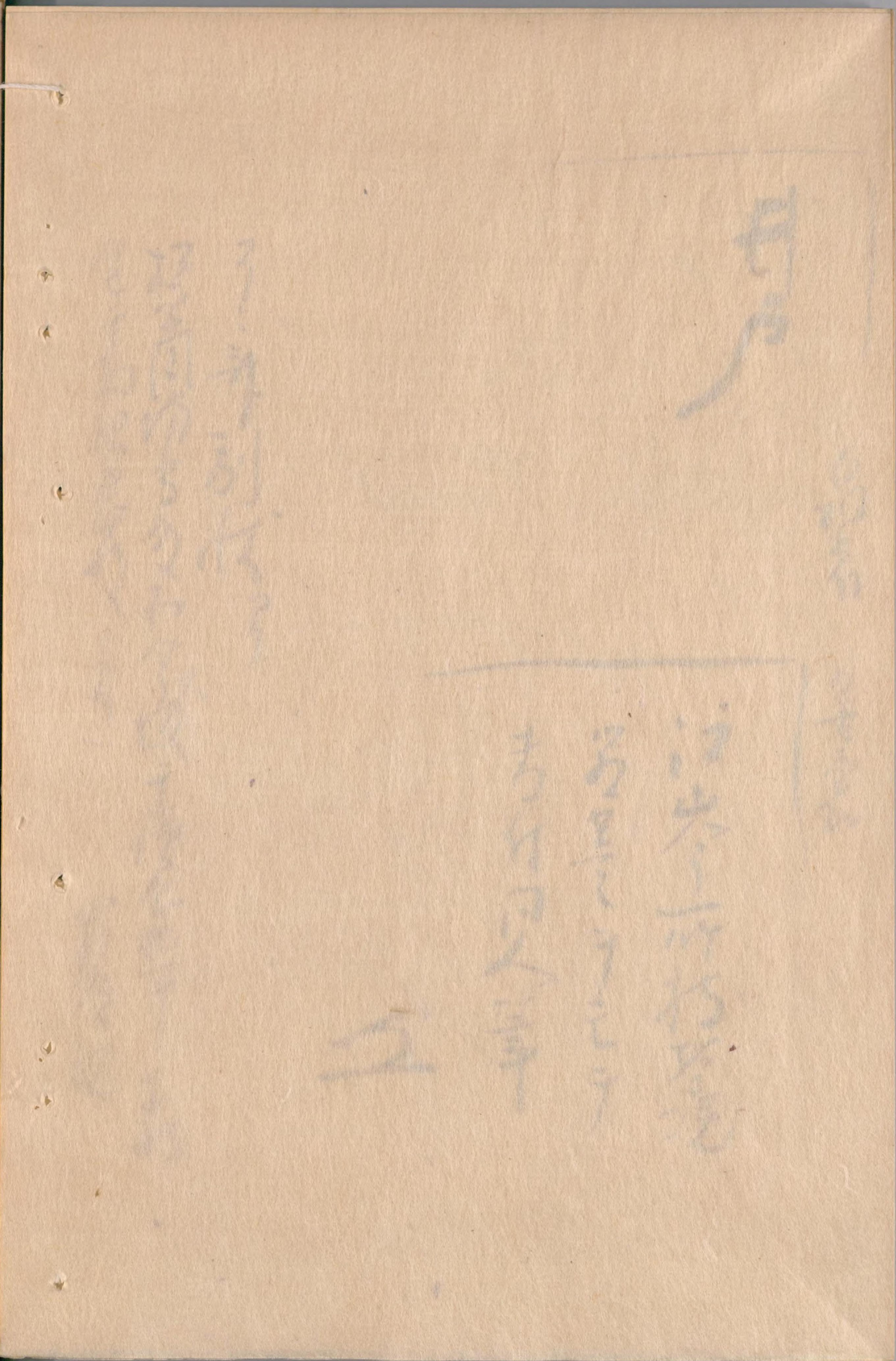
白磁
鉢



底

白磁
鉢
蓋
白子
糸

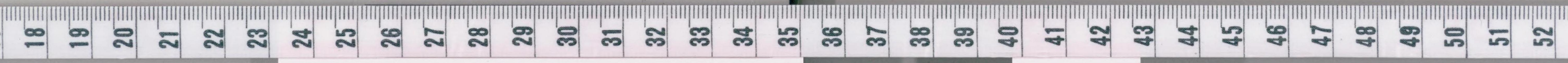
仲
子
糸



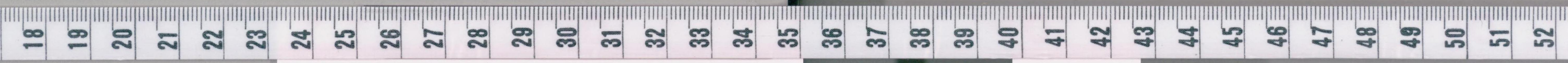
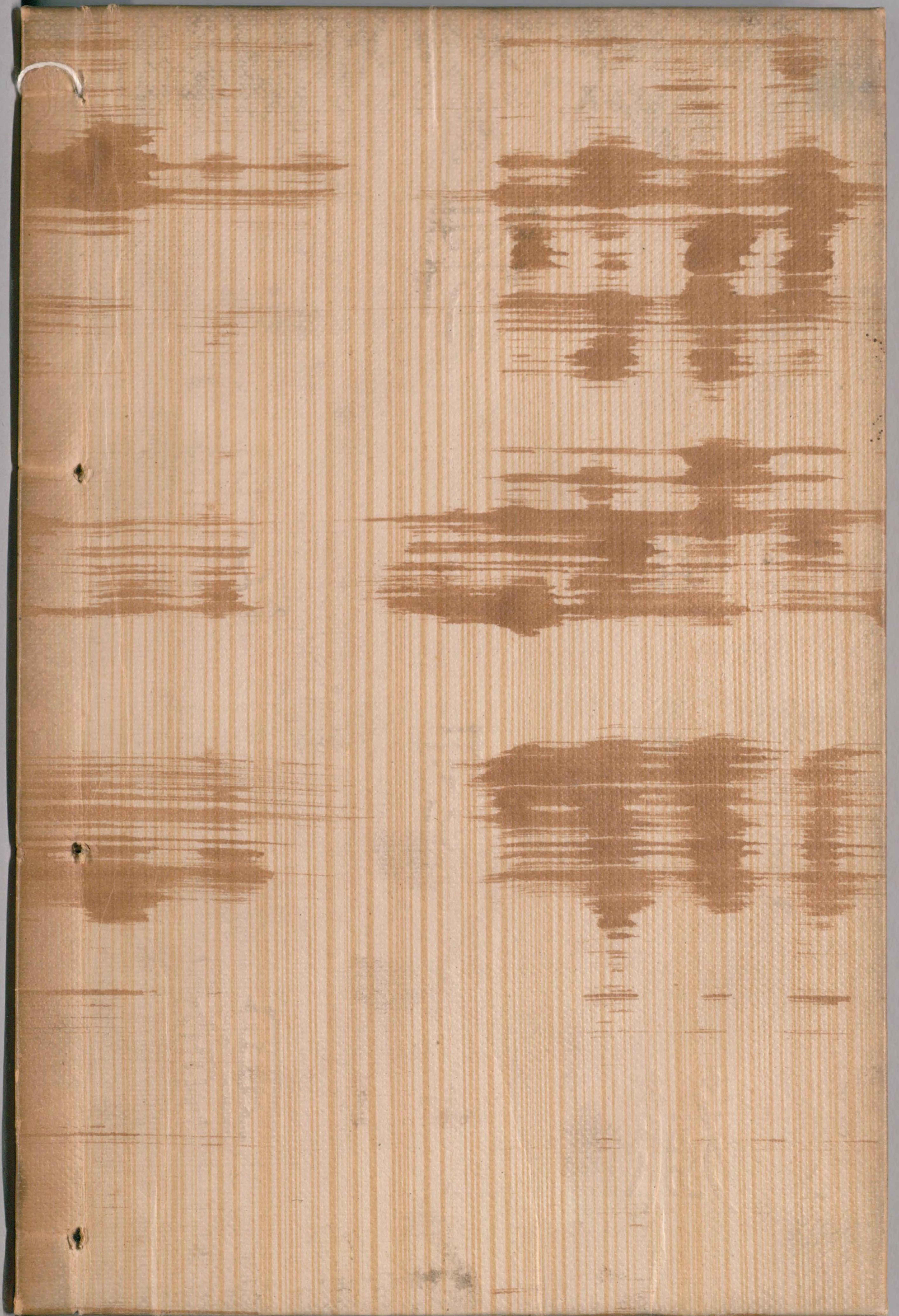
月

中央所
別冊
考行
人
年

五



831
77
95



国立国会図書館 タイトル『過眼録』 請求記号 831-95

ガラス使用